釧路工業高等専門学校	情報工学分野	開講年度	令和06年度 (2024年度)
学科到達目標			

教育目標

- 1. 人格をそなえ,自己を律する人物を育てる
- 2. 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる
- 3. チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

学習目標

【準学士課程】(実践的・創造的技術者)

- A: (技術者として社会に貢献するために)人類の歴史的な背景,文化や価値観の多様性を理解し,地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力,および技術が社会や環境に与える影響を認識し,技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。
- B: (地域・社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。
- C: (技術的課題を解決できるように)工学の幅広い基礎知識(数学,自然科学,情報技術,基礎工学)を修得し,それらを応用する能力を身につける。
- D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し, それを応用する能力を身につける。
- E:技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。
- F:文章,口頭,図表や視覚的な方法によって,効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち,日本語で論理的に記述 し討論する能力,および簡単な論理的文章を英語で記述し,基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。
- G: (技術の進展や社会の変化に対応できるように)継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員 名
創造工学科情報工学 分野	本科4年	学科	専門	情報工学実験I	2	土江田 織枝
創造工学科情報工学 分野	本科4年	学科	専門	計算機方式	2	土江田 織枝
創造工学科情報工学 分野	本科4年	共通	専門	学外実習Ⅱ	2	
創造工学科情報工学 分野	本科5年	共通	一般	知的財産	2	古谷栄男

						学	年別	週当	授	業時数	<u></u>												
±N ⊏	- 157		扒口来	出台種		14	¥		2	2年		3年			4年	Ξ		5	年			+0 11 44	定收 L
科目分	스타	授業科目	科目番 号	単位種 別	単位数	前		後	Ī	前	後	前	í	後	前	:	後	育	ÍJ	後		担当教 員	履修上 の区分
						1 Q	2 Q	3 4 Q 0		1 2 Q Q	3 4 Q Q	1 Q	2 3 Q 0	3 4 Q Q	1 Q			4 1 Q Ç	2 Q	3 Q	4 Q		
— 般	選択	海外語学研修I	0001	履修単 位	1	集	中講	義														中島 陽 子	
— 般	選択	海外語学研修Ⅱ	0002	履修単 位	1	集	中講	義														中島 陽 子	
— 般	必修	英語	0007	履修単 位	4	4		4														城山 友 孝	
— 般	必修	英語	8000	履修単 位	2	2		2														菅原 崇	
- 般	選択	音楽	0009	履修単 位	2	2		2														林 幸利 ,中野 國韻	
— 般	必修	公共A	0010	履修単 位	1	2																細見 佳 子	

- 般	必修	公共B	0011	履修単 位	1	2 2	山内 一 美,瀧 川 貴利
—	必修	国語	0012	履修単 位	4	4 4	加藤 岳人,高松明日香
— 般	選択	美術	0013	履修単 位	2	2 2	型加藤 直 樹,林 幸利 ,磯 優 子
一般	必修	倫理社会	0014	履修単 位	2	2 2	<u>于</u>
- 般	必修	数学B	0015	履修単位	2	2 2	宮毛明子,若狭恭平,池田盛一
—	必修	数学A	0016	履修単	4	4 4	一 池田盛 一,村 上,公台 ,小谷 ,秦介 ,上別 府陽
一般	必修	化学	0017	履修単 位	2		佐藤 潤
—	必修	地球と生命	0018	履修単 位	1	2 2	小久保 慶一
— 般	必修	保健体育	0019	履修単 位	2		三島 利紀
一般	必修	物理	0020	履修単	2		浦家 淳 博,梅 津 裕志
専門	選択	海外異文化理解研修	0003	履修単 位	1	集中講義	中島陽子
専門	選択	海外異文化理解研修Ⅱ	0004	履修単 位	1	集中講義	中島陽子
専門	必修	工学基礎	0005	履修単位	1		中子木関孝加順伊光小斉渡駿間中陽島鈴未根次藤司藤樹谷之邊岩雄井子開東東
専門	必修	情報リテラシー	0006	履修単位	1	2	林・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

			ᅟᅟᅟᅟᇜᆍᄼᇠᆝ	A和06左座 /	2024年度)	1117 11 1	IN \square	* ===
		等専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業和	日	英語
科目基		0007			NDEA		5П. / Х/	.A7
科目番号授業形態		0007 講義			科目区分 単位の種別と単位		般 / 必 修単位:	•
開設学科					対象学年		修平位:	4
開設期	<u> </u>	通年	トルギ		週時間数	4		
教科書/教	 纹材	教科書:	LANDMARK Fit Eng	lish Communica	tion I(啓林館)		: //_/	△ ¬
担当教員		城山 友	: ジーニアス英和辞典 _茎	弗 b 級(入修路)	、シーニア人和央部	羊典弗 3 版	. (入修	<u> </u>
到達目			<u>, </u>					
文章を英 1. 中学 2. 英語 3. 上記	語で記述し 校で既習の コミュニケ の英語の文	文法事項のI ーション I (ニケーションを円滑に 里解を深めてそれを運 D検定教科書に用いら E握することができる	用できる英語力を れている英語の文	獲得してその力を防	道時発揮で	きる	できる
ルーブ	リック		TM+0.45 () T() T (I#3445 1 2 713 7 1			
			理想的な到達レク		標準的な到達レベ			未到達レベルの目安
評価項目	1		英文を流暢に音詞		英文をある程度II	・唯に首読	できる	英単語の発音が正確にできない。
評価項目	12		教科書の英文の内 くらいに理解でき		教科書の英文の内 できる。	容を正確	に理解	教科書の英文の概要を把握できない。
評価項目	13		基本的文法を用し	\て作文ができる	基本的文法が用い 味が理解でき、さ 目との関連を意識	らに他の		基本的文法が用いられた英文の意 味を理解できない。
学科の	到達目標	項目との関	 身係					
教育方								
概要		、質問原 り、論理 指す。	び答等、また音読や適 里的な文章を英語で記	宜リスニング教材 述したり英語でコ 	を通して聞き取りf ミュニケーションを 	指力や発話 を行えるよ	能力の うにな 	ざす。また、英語による指示や説明 向上を図る。そして以上のことによ るための基礎的な英語力の養成を目 文内容ならびに文法事項の確認を行う
授業の進	め方・方法	・1年 の1を担 が60点	「英語」全体の最終的 3う。したがって、城 点未満のとき、再試験	な成績評価は、授 山の成績と菅原の を行う。ただし、	業担当の城山(週2 成績を、この比率で 再試験は2人の担当	2コマ)と で合算した 当者の成績	菅原(ものが のうち	週1コマ)がそれぞれ3分2と3分 1年「英語」の総合成績となり、それ 60点未満だった方の再試験を行う
		・配布物	引、教科書、電子端末 勿は必ずファイル等に	? ? を持参するこ 閉じ管理すること	<u>د</u> .			
	屋性•履	・配布物 ・後関連	かは必ずファイル等に 連科目:英語(2年)	??を持参するこ 閉じ管理すること	د .			
□ アク		・配布物 ・後関連 修上の区分	かは必ずファイル等に <u>車科目:英語(2年)</u> }	??を持参するこ 閉じ管理すること				□ 実務経験のある教員による授業
□ アク	属性・履	・配布物 ・後関連 修上の区分	かは必ずファイル等に 連科目:英語(2年)	??を持参すること 閉じ管理すること	と。。			□ 実務経験のある教員による授業
	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分	かは必ずファイル等に <u>車科目:英語(2年)</u> }	??を持参するこ 閉じ管理すること				□ 実務経験のある教員による授業
□ アク: 授業計i	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分	かは必ずファイル等に <u>車科目:英語(2年)</u> }	??を持参するこ 閉じ管理すること	☑ 遠隔授業対応	週ごとの至	引達目標	
	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分 ニング	がは必ずファイル等に 基科目: 英語 (2年) } □ ICT 利用	閉じ管理すること	☑ 遠隔授業対応	週ごとの到 1. 英文の でき、簡単	音読が 3 な文で	
	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分 ニング 週	がは必ずファイル等に 単科目:英語(2年) → □ ICT 利用 「授業内容」 ガイダンス	閉じ管理すること	☑ 遠隔授業対応	週ごとの至 1. 英文の でき、簡単 1. 不定詞 1. 英文の	音読が はな文で /動名詞 音読が	【 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。
	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分 ニング 週 1週	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年) ② ICT 利用 授業内容 ガイダンス 教科書 Lesson 1 Pa	閉じ管理すること art 1 art 2	□ 遠隔授業対応	週ごとの至 1. 英文簡詞 1. でき、不文文簡詞 1. でき、不文文簡詞 でき、不文文 1. でき、不文 き、	音読がて /動名 /動名 /動名 /動名 /動名 /動音 がて /動き がて /動き がて で で で で で で で で	園切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 園の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解
	ティブラー:	・配布物 ・後関連 修上の区分 ニング 週 1週 2週	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年)	閉じ管理すること art 1 art 2 art 3	□ 遠隔授業対応	週ごとの至 1. 英文第記 1. 英、宋文第定 1. で2. 英、宋文第定 2. き、不文の 3. き、不交る 5. で3. 動態	音読がでは 音読がて (適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 ③の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 ・運用できる。 ③の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。
	画	・配布物 ・後関連 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年) ② ICT 利用 授業内容 ガイダンス 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 1 Pa	閉じ管理すること art 1 art 2 art 3	□ 遠隔授業対応	週 英 の の 全 で との で との 文 簡 記 一 英 、不 英 、不 英 、不 英 る 受 き 文 る で え き ・ で 2 ・ ・ き ・ で 2 ・ ・ き ・ で 2 ・ ・ き ・ で 2 ・ ・ き ・ で 3 ・ ・ き ・ で 5 ・	音は 対 音は 対 音 は 対 音 は が て 記 が て 名 が で な 動 読 文 名 が で な 動 読 文 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で 名 が で る か で か で か で か で か で か で か で か で か で	適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 別の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 適切にでき、英文の概要を適切に理解
授業計	画	・・後関連 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年) プ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 1 Pa	閉じ管理すること art 1 art 2 art 3 art 1	□□遠隔授業対応	週 1.で1 1.で2 1.で3 1.で3 用 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3	音は別語文名がで記述が、音は別語文名がで記述/一音な別語文名がで記述/一音に別語文名がで記述の音がで記述の音がで記述の音ができません。 音楽 はいま こうしょう はい こうしょう こうしょう はい こう はい はい こう はい こう はい こう はい こう はい はい こう はい こう はい はい はい はい はい はい はい	適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適の用法が理解できる。 適の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 記すの用法が理解でき、簡単な文で運
授業計	画	・・後 1 1 1 1 1 1 1 1 1	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年) ② ICT 利用 授業内容 ガイダンス 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 2 Pa 教科書 Lesson 2 Pa	閉じ管理すること art 1 art 2 art 3 art 1	□□遠隔授業対応	週 1.で1 1.で2 1.で2 用 1.で3 1.で2 対 1.で3 1.で2 対 5.不 英・不 英・子	音は別語文名がで記述が、音は別語文名がで記述/一音な別語文名がで記述/一音に別語文名がで記述の音がで記述の音がで記述の音ができません。 音楽 はいま こうしょう はい こうしょう こうしょう はい こう はい はい こう はい こう はい こう はい こう はい はい こう はい こう はい はい はい はい はい はい はい	適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 で見の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 完了の用法が理解でき、簡単な文で運 適切にでき、英文の概要を適切に理解 完了の用法が理解でき、簡単な文で運 適切にでき、英文の概要を適切に理解
授業計	画	・・後 ・・ は ・ は ・ は ・・ は は	がは必ずファイル等に 連科目: 英語 (2年) ② ICT 利用 授業内容 ガイダンス 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 1 Pa 教科書 Lesson 2 Pa 教科書 Lesson 2 Pa 教科書 Lesson 2 Pa	朗じ管理すること art 1 art 2 art 1 art 2 art 3 art 1	□□遠隔授業対応	週 1.で1 1.で2 1.で3 1.で3 用 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3 1.で3	音は別語文名がで記述が、音は別語文名がで記述/一音な別語文名がで記述/一音に別語文名がで記述の音がで記述の音がで記述の音ができません。 音楽 はいま こうしょう はい こうしょう こうしょう はい こう はい はい こう はい こう はい こう はい こう はい はい こう はい こう はい はい はい はい はい はい はい	適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 運用できる。 適の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 で見の用法が理解できる。 適切にでき、英文の概要を適切に理解 完了の用法が理解でき、簡単な文で運 適切にでき、英文の概要を適切に理解 完了の用法が理解でき、簡単な文で運 適切にでき、英文の概要を適切に理解

	_			
		4.00	***************************************	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解 できる。
		10週	教科書 Lesson 3 Part 2	できる。 3. 比較級/分詞/関係代名詞の用法が理解でき、簡単 な文で運用できる。
				1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		11週	教科書 Lesson 3 Part 3	できる。 4. 比較級/分詞/関係代名詞の用法が理解でき、簡単 な文で運用できる。
				1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		12週	教科書 Lesson 4 Part 1	できる。 2. 関係代名詞/関係副詞の用法が理解でき、簡単な文
				で運用できる。 1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		13週	教科書 Lesson 4 Part 2	できる。 3. 関係代名詞/関係副詞の用法が理解でき、簡単な文
				で運用できる。 1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		14週	教科書 Lesson 4 Part 3	1. 笑文の自記が過いにてき、笑文の似姿を過いに程序できる。 4. 関係代名詞/関係副詞の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
		15週	Review	(と)
		16週	前期期末試験を実施する	
		100	日が分れては一日の大きな	
			4 51 7	できる。
		1週	教科書 Lesson 5 Part 1	2. to不定詞の意味上の主語/関節疑問文/S+V+O+to do/知覚動詞・使役動詞の構文の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
				1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		2週	教科書 Lesson 5 Part 2	できる。 3. to不定詞の意味上の主語/関節疑問文/S+V+O+to do/知覚動詞・使役動詞の構文の用法が理解でき、簡
				単な文で運用できる。 1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。
		3週	教科書 Lesson 5 Part 3	4. to不定詞の意味上の主語/関節疑問文/S+V+O+to do/知覚動詞・使役動詞の構文の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
	2.40			1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
	3rdQ	4週	教科書 Lesson 6 Part 1	できる。 2、be動詞の保護になるthat節/対比のwhile/形式目的 語it/間接疑問の陽光が理解でき、簡単な文で運用でき る。
		5週	教科書 Lesson 6 Part 2	1. 英文の自説が過場にてき、英文の概要を過場に達解できる。 3、be動詞の保護になるthat節/対比のwhile/形式目的 語it/間接疑問の陽光が理解でき、簡単な文で運用でき
				る。 1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解
		6週	教科書 Lesson 6 Part 3	できる。 4、be動詞の保護になるthat節/対比のwhile/形式目的 語it/間接疑問の陽光が理解でき、簡単な文で運用でき る。
後期		7週	Review	
		8週	後期中間試験を実施する	
		9週	教科書 Lesson 7 Part 1	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。
			秋村首 LESSOII / Tart I	できる。 2. 関係詞の非制限用法/分詞構文の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
		10週	教科書 Lesson 7 Part 2	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。
			MITE ECOSOTI / Turc Z	3. 関係詞の非制限用法/分詞構文の用法が理解でき、 簡単な文で運用できる。
		11週	教科書 Lesson 7 Part 3	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。 4. 関係詞の非制限用法/分詞構文の用法が理解でき、 簡単な文で運用できる。
	4thQ	12週	教科書 Lesson 8 Part 1	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解 できる。 5. lessを用いた比較級/知覚動詞の構文/過去完了/仮
				定法の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
		13週	教科書 Lesson 8 Part 2	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。 6. lessを用いた比較級/知覚動詞の構文/過去完了/仮
				定法の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
		14週	教科書 Lesson 8 Part 3	1. 英文の音読が適切にでき、英文の概要を適切に理解できる。 7. lessを用いた比較級/知覚動詞の構文/過去完了/仮定法の用法が理解でき、簡単な文で運用できる。
		15週	Review	た/ムッ/川/ム// 生所 しこ、 町千/5人 し足用 しごづ。
		16週	後期期末試験を実施する	
エデリ	コアカロ		の学習内容と到達目標	
	ユグルソ			元(大) 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
分類		分野	学習内容 学習内容の到達目標	到達レベル 授業週

評価割合									
	中間試験	期末試験	合計						
総合評価割合	200	200	400						
前期	100	100	200						
後期	100	100	200						

科目基础	各工業高等	等專門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	
	 礎情報					
科目番号		0008		科目区分	一般 / 必值	<u> </u>
授業形態		講義		単位の種別と単位	拉数 履修単位:	2
開設学科		情報工学	分野	対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	数材) ; 3 7	①高校トレーニングノートa英文法 基 その他配布資料 ジーニアス英和辞典第6版(大修館)			,
担当教員		菅原 崇				
到達目標						
2. 局校	1年次で必	修の英文法具	ニケーションを円滑に行うための基礎的 足復習し、十分に理解、運用できる 貝目を理解し、運用できる ・熟語を記憶し、運用できる	能力を養うための	初期段階として、	
ルーブ!	リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク	ジルの目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		中学英文法が十分に理解できる	中学英文法がある	る程度理解できる	中学英文法を理解できない
評価項目	2		高校英文法が十分に理解できる	高校英文法がある	る程度理解できる	高校英文法が理解できない
評価項目	3		高校1年次に必要な英単語・熟語	高校1年次に必要	要な英単語・熟語	高校1年次に必要な英単語・熟語を理解できない
		 項目とのB	を十分に理解できる B/ダ	をある程度理解で	<u>. c の</u>	を理解できない
子科の 教育方法		リロこのほ	到1术 ————————————————————————————————————			
概要	, a 1, 1	年度開始	ー 台当初はEラーニング教材を用いて、中	 学英文法の復習を行	 fう。その後、教科	
<u> </u>			ります。 一下、ならびに単語リストを用いて同年			
		成績評価	ニング教材は、ゴールデンウィーク明に 面の3分の1に相当する。 Fストは指定された範囲の単語・熟語を			
		・定期記	「人下は指足された戦団の早間・熱間を は験の出題割合:教科書の学習範囲50	9八c山越する。 %;指定された範囲	単品チストは各足界	が が が が が に 行
授業の進	め方・方法	1・1年	「英語」全体の最終的な成績評価は、授	業担当の城山(週2	2コマ) と菅原(近	週1コマ)がそれぞれ3分2と3分
		001を担	目う。したがって、城山の成績と菅原の 京未満のとき、再試験を行う。ただし、	成績を、この比率(再試験は2人の担旨	で台昇したものか1 当者の成績のうち(年「央語」の総合成績となり、それ 50点未満だった方の再試験を行う
		し。 ト記とと	こもに、菅原担当の本授業では各定期試	験で不合格だったる	ちかどを対象に、ii	節官再試験を実施する.
			別、筆記用具、教科書、単語リスト、辞			
注意点		・配布物	7は必ずファイル等に閉じ管理すること	0		1427 DCC.
		・単語フー・後関連	-ストや定期試験のために、必ず授業外 [科目:英語(2年)	に子省時間を設ける	ること。	
授業の	属性・履信	修上の区分)			
	ティブラーニ		☑ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	画					
		週	授業内容	:	週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス Eラーニング		1. 中学英文法が	理解できる
		2週	Eラーニング			
			Eラーニング		1. 中学英文法が	·
		3週	教科書①		2. 文の要素と55	
	1stQ	4週	Eラーニング 教科書②、③		1. 中学英文法が2. 時制が理解で	理解できる
	IsiQ	5週	JAN 18 CT C			
	1		教科書④、⑤		1. 時制が理解で	きる
					 時制が理解で 文の種類が理 	ව ිති වි
		6週	教科書⑥、⑦		 時制が理解で 文の種類が理 助動詞の理解 	きる きる 解できる
		6週 7週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習		 時制が理解で 文の種類が理 助動詞の理解 	ව ිති විති
前期		6週	教科書⑥、⑦		 時制が理解で 文の種類が理 助動詞の理解 	きる きる 解できる
前期		6週 7週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施	100)	1. 時制が理解で 1. 文の種類が理 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学	きる きる 解できる 習内容が理解できる
前期		6週 7週 8週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1-	100)	 時制が理解で 文の種類が理 助動詞の理解 	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる
前期		6週 7週 8週 9週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説	100)	1. 時制が理解で 1. 文の種類が理 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分詞が理解で	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる
前期		6週 7週 8週 9週 10週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪	100)	1. 時制が理解で 1. 文の種類が理 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分詞が理解 2. 形容詞・副詞	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト (No.101-200)	100)	1. 時制が理解で 1. 文の種類が理 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 2. 形容詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解で	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる 熟語が理解できる きる
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト (No.101-200) 教科書⑫、⑬	100)	1. 時制が理解で 1. 文の理解が理 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 2. 動名詞が理解で 2. 形容詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解で 2. 受動態が理解 2. 受動態が理解	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる 熱語が理解できる きる きる
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト (No.101-200) 教科書⑫、⑬ 教科書⑫、⑬	100)	1. 時制が理解で 1. 文の理解が理解で 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分語詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解解 1. としまが理解解 1. 数科書®~⑤	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる 熟語が理解できる きる できる できる
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト (No.101-200) 教科書⑫、⑬ 教科書 復習問題② 学習内容の復習	100)	1. 時制が理解で 1. 文の理解が理解で 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分語詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解解 1. としまが理解解 1. 数科書®~⑤	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる 熱語が理解できる きる きる
前期	2ndQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1- 前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト (No.101-200) 教科書⑫、⑬ 教科書⑫、⑬	100)	1. 時制が理解で 1. 文の理解が理解で 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分語詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解解 1. としまが理解解 1. 数科書®~⑤	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる きる が理解できる 熟語が理解できる きる できる できる
前期	2ndQ 3rdQ	6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週	教科書⑥、⑦ 学習内容の復習 前期中間試験実施 (出題:教科書学習範囲+単語No.1-前期中間試験解説 教科書®、⑨ 教科書⑩、⑪ 単語テスト(No.101-200) 教科書⑫、⑬ 教科書・復習問題② 学習内容の復習 前期期末試験実施	100)	1. 時制が理解で 1. 文の理解が理解で 2. 助動詞の理解 1. ここまでの学 1. 不定詞が理解 2. 動名詞が理解 1. 分語詞・副詞 1. 指定の単語・ 1. 比較が理解解 1. としまが理解解 1. 数科書®~⑤	きる きる 解できる 習内容が理解できる できる できる できる きる が理解できる 熟語が理解できる きる できる できる できる できる

基礎的能力 人文社会		Au miv miv miv dul miv c c c c c c c c c	教科書②、② 教科書②、③ 教科書③、③ 単語テスト(教科書②、復 学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験科 (出題:教科	No.30 問題 3	第1000 1000	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	1. 関係詞か 教科書(全) ② 1. ここまで 1. 仮定法が 1. 会話文が 1. 音話文の 1. 音話文の 1. 会教子 2. 教ごまで 1. ここまで 1. ここまで	単語・熟語が理解が理解できる。 ②に該当する英文での学習内容が理解できる。 び世解でできるが理解できるが理解できる。 単語・熟語が理解が理解できる。 単語・熟語が理解が理解できる。 「世語・教語を当ずる。」 「この学習内容が理解での学習内容が理解である」」 「この学習内容が理解である」での学習内容が理解である。	(法が理解できる)(学する)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)<th>授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</th>	授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
モデルコアカリキ分類	5週 6週 7週 8週 9週 10以 11以 12以 13以 14以 15以 16以 16以		教科書⑩、⑩ 教科書 復習 学習内容の復 後(出類書迎、⑫ 教科科書②、⑫ 教科科書②、⑫ 教教科書②、凡(教教科書②、人(教習四内容記談科 教習四内容記談科 学習期期末記 学習内容記談科 学習内容と	問題③ 実書 No.50 問 習 選 選 第 第 第 第 第 第 第 9	第1000 1000	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	1. 関係詞か 教科書(全) ② 1. ここまで 1. 仮定法が 1. 会話文が 1. 音話文の 1. 音話文の 1. 会教子 2. 教ごまで 1. ここまで 1. ここまで	が理解できる のに該当する英文での学習内容が理解できる が理解できるが理解できる が理解できる が理解できる が理解できる が理解できる の学習内容が理 での学習内容が理 での学習内容が理	(法が理解できる)(学する)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)(を持ちる)<td>授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td>	授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
モデルコアカリキ 分類 人文社会	6週 7週 8週 9週 10近 11近 12过 13近 14近 15近 16近		教科書 復習 学習内容の復 後期出題: かる (と) 数科書の、の 教科書の、の 教科書の、の 教科書の、の 教科書の、の 教科書の、の 教科書の、の 後 と) 数科書ののの で 教習のでのの で のので で のので が を り ののので に り ののので に り ののので に り ののので に り のののので に り ののので に り り り り り り り り り り り り り り り り り り	問習 実書 No.50 題 習 習 選 漢書 至 図	図範囲 + 単語No.40 D1-600) 通④ の1-600) の1-600) の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 では、ここことによっている。 では、ここ	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	教科書(W)~(Q) 1. ここまで 1. 仮定法が 1. 公詞構文 1. 会話文の 1. 告話文の 1. 会話科書で 1. ここまで 1. ここまで 1. ここまで	のに該当する英文での学習内容が理解できるとが理解できるが理解できるが理解できる。 単語・熟語が理解が理解できるのでは該当するの学習内容が理での学習内容が理での学習内容が理での学習内容が理での学習内容が理がある。	程解できる 英文法が理解 理解できる 理解できる	授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
モデルコアカリキ 分類 人文社会	8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週		学習内容の復 後期期間: 30 (2) (2) (2) (3) (3) (4) (4) (4) (4) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	習 実書 No.50 題 習 習 実書 到 容	図範囲 + 単語No.40 D1-600) 通④ の1-600) の1-600) の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 の1-600 では、ここことによっている。 では、ここ	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	1. Cこまで 1. 仮定法が 1. 公話文が 1. 会話文が 1. 告話文が 2. 教科 ここまで 1. ここまで ・文にがり・区	での学習内容が理解できる でが理解できる が理解できる が理解できる 単語・熟語が理解 が理解できる の一般できる での学習内容が理 での学習内容が理 での学習内容が理 での学習内容が理	程解できる 英文法が理解 理解できる 理解できる	授 前 3 前 3 前 3 前 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
モデルコアカリキ 分類 人文社会	9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	(出題:教科書の、の数科書の、の数科書の、の数科書の、の数科書の、の数科書の、の数目の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	書学習習習実書到底 No.50 習習選達書到 高子	01-600) (4) (4) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	1. 分詞構文 1. 会話文か 1. 指定の単 1. 会話文か 2. 教科書を 1. ここまで 1. ここまで ・文におけるがり・区	でできるが理解できるが理解できる。 対象の学習内容が理例をが理解できるの学習内容が理例のではいる。 での学習内容が理解をあるが理解をある。 文における できる かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく	5英文法が理解 理解できる 理解できる	授業 前 1,前 2,前 前 3,前前 前 前 前 1,5 前 前 1,4 前 1,5 前 前 1,5 後後後後 7,前前前 1,5 後後後後後 7,6 後後 10,後後 69, 11,6 後後 11,2 前 1,1 前 1,
モデルコアカリキ 分類 人文社会	10近 11近 12近 13近 14近 15近 16近	週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 回	教科書②、② 教科書②、③ 教科書②、③ 単語テスト(教科書②、復 学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	No.50 習問題 選別 主書 三子 三子 三子	01-600) (4) (4) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	1-670) 票 つるよう、語・句 ネーション、	1. 分詞構文 1. 会話文か 1. 指定の単 1. 会話文か 2. 教科書を 1. ここまで 1. ここまで ・文におけるがり・区	でできるが理解できるが理解できる。 対象の学習内容が理例をが理解できるの学習内容が理例のではいる。 での学習内容が理解をあるが理解をある。 文における できる かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく	5英文法が理解 理解できる 理解できる	授業 前 1,前 2,前 前 3,前前 前 前 前 1,5 前 前 1,4 前 1,5 前 前 1,5 後後後後 7,前前前 1,5 後後後後後 7,6 後後 10,後後 69, 11,6 後後 11,2 前 1,1 前 1,
モデルコアカリキ 分類 人文社会	11说 12说 13说 14说 15说 16说		教科書③、③ 単語テスト(教科書②、復 学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	図問題 習 実書学 子容	全 全 全 全 全 を は は は は は は は は は は は は は	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	1. 会話文が 1. 指定の単 1. 会話文が 2. 教科書② 1. ここまで 1. ここまで ・文におけるのながり・区	が理解できる 単語・熟語が理解 が理解できる ①〜②に該当する ごの学習内容が理 ごの学習内容が理	5英文法が理解 理解できる 理解できる	授業 前 1,前 2,前 前 3,前前 前 前 前 1,5 前 前 1,4 前 1,5 前 前 1,5 後後後後 7,前前前 1,5 後後後後後 7,6 後後 10,後後 69, 11,6 後後 11,2 前 1,1 前 1,
モデルコアカリキ 分類 人文社会	12返 13返 14返 15返 16返 Fユニ	間 間 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	単語テスト(教科書②、復 学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	図問題 選習 実書学 選	全 全 全 全 全 を は は は は は は は は は は は は は	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	1. 指定の単 1. 会話文の 2. 教科書の 1. ここまで 1. ここまで ・文におけるの つながり・区	単語・熟語が理解が理解できる ①~②に該当する ②~②に該当する ②の学習内容が理 での学習内容が理	5英文法が理解 理解できる 理解できる	授業 前 1,前 2,前 前 3,前前 前 前 前 1,5 前 前 1,4 前 1,5 前 前 1,5 後後後後 7,前前前 1,5 後後後後後 7,6 後後 10,後後 69, 11,6 後後 11,2 前 1,1 前 1,
モデルコアカリキ 分類 人文社会	13返 14返 15返 16返 Fユニ	周 周 周 万 <u>人</u> の	教科書②、復 学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	習習実書到達	第10年 (4) (4) (4) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (7) (8) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	1. 会話文か 2. 教科書② 1. ここまて 1. ここまて ・文におけるのつながり・区	が理解できる ①〜のに該当する ②〜のに該当する ごの学習内容が理 ごの学習内容が理	5英文法が理解 理解できる 理解できる	授業 週 前 1, 1, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 2, 3, 2, 4, 4, 4, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,
モデルコアカリキ 分類 人文社会	14近 15近 16近 Fユニ	国 国 3 万人のi	学習内容の復 学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	習習実書学習	留範囲 + 単語No.60 三目標 学習内容の到達目標 聞き手に正しく伝え あいら明瞭に音読ある	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	2. 教科書館 1. ここまで 1. ここまで ・文における。 つながり・区	②~②に該当する での学習内容が理 での学習内容が理	理解できる 理解できる 到達レベル	授業 週 前 1, 1, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 1, 2, 2, 3, 2, 4, 4, 4, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 4, 2, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1,
分類 人文社会	15近 16近 Fユ	国 : 国 ? ラムの:	学習内容の復 後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	署 実施 主 到達	目標 学習内容の到達目標 聞き手に正しく伝えるリズム・さんがら明瞭に音読ある	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	1. ここまで ・文における つながり・区	での学習内容が理	到達レベル	前1,前2,前3前4,前5前6,前10,前10,前111,前111,前111,前111,前111,前111
分類 人文社会	16週 Fユ	¹ ラムの ³	後期期末試験 (出題:教科 学習内容と	実施 書学 選子 子子 子子子 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子	目標 学習内容の到達目標 聞き手に正しく伝えるリズム・さんがら明瞭に音読ある	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	・文における つながり・区	強勢、文におけ	到達レベル	前1,前2,前3前4,前5前6,前10,前10,前111,前111,前111,前111,前111,前111
分類 人文社会	F 그 =	ョ ラムの ^s	(出題:教科 学習内容と	書学習	目標 学習内容の到達目標 聞き手に正しく伝えるリズム・さんがら明瞭に音読ある	票 つるよう、語・句 ネーション、音の	つながり・区	強勢、文におけ 切りを意識しな		前1,10 10,10 10,10 10,10 10,10 10,10 112,10 112,10 114,10
分類 人文社会				谷	学習内容の到達目標 聞き手に正しく伝え るリズム・イントネ がら明瞭に音読ある	つるよう、語・句 ネーション、音の	つながり・区	強勢、文におけ 切りを意識しな		前1,10 10,10 10,10 10,10 10,10 10,10 112,10 112,10 114,10
甘磁的能力 人文社会		分野	学習内容		聞き手に正しく伝えるリズム・イントネがら明瞭に音読ある	つるよう、語・句 ネーション、音の	つながり・区	強勢、文におけ 切りを意識しな		前1,10 10,10 10,10 10,10 10,10 10,10 10,10 11,10
基礎的能力				_	るリズム・イントネがら明瞭に音読ある	ネーション、音の	つながり・区	強勢、文におけ 切りを意識しな	1	3前4,6前 5,前9前13,6 112,前13,14 112,前13,6 114,後2,4 114,後2,4 114,6 112,6 112,6 112,6 114
基礎的能力					<u></u>					3.前4.前
	会科	英語	英語		中子仪までに子省し じた新出語彙、及び 運用できる。	ンた語彙の定着を バ専門教育に必要	図り、高等学 となる語彙を	校指導要領に準 習得して適切に	1	5,前6,前6,前7,前9,前10,前11,前13,前14,前15,後2,後4,後4,後後6,後415,在6,後後11,後後後後112,後後13,4,後415
					中学校までに学習し 指導要領に準じた3 用できる。	ンた文構造及び文 文構造及び文法事	法事項に加え 項について習	、高等学校学習 得して適切に運	1	前1,前2,前4,前5,前6,前前6,前前6,前前11,前13,前後3,後後3,後後3,後後3,後後3,後後311,後後3,後後11,4,13,6
					実際の場面や目的に (ジェスチャー、フ 。	こ応じて、基本的 アイコンタクト)	なコミュニケ を適切に用い	ーション方略 ることができる	1	前1,前2,前 3,前6,前 5,前9,前前 10,前14,前 13,前前1,前 13,前4,後 2,後6,後6,後 5,後後,後 10,後後11,後 13,後 10,後後11, 13,前 13,前 14,後 14,後 15,後 16,後 16, 16, 16, 16, 16, 16, 16, 16, 16, 16,
評価割合			·							
	前	期中間		前期	期末	後期中間	後期期	期末	合計	
総合評価割合	15			150		150	150		600	
定期試験	140	00		100		100	100		400	
単語テスト Eラーニング進捗状況	0			50		50	50		150 50	

		\$専門学校	開講年度 令和06年	年度 (2024年度)	授業科目	音楽			
科日县	<u> </u>	<u> </u>	- 1 בופנויו אין דופנויו	,, <u>,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,</u>		H = 1			
科目番号		0009		科目区分	一般 / 選				
授業形態		実技		単位の種別と単					
開設学科			·/>田ヌ			: 2			
	7	情報工学 通年	· /リ±j'	対象学年 週時間数	2				
開設期			MOLICA 1 (1	, — , — , — , — , — , — , — , — , — , —	空水。. (政路计) 女才 事:水平立			
教科書/	教材		MOUSA 1 (教育芸術社) 補 教育芸術社)、中学生・高校生	助教材:Music Note 〜 Eのための吹奏楽・楽典・					
担当教員	-	林 幸利,	中野 國韻						
到達目									
するため 1. 楽調	かに、以下の 普の意味を理	2つのことを	到達目標とする。 . 読み書きができる。	< 豊かな人間性を養い、る	さらには音楽の文化	や歴史、その価値観の多様性を理解			
ルーブ	ブリック								
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達し	ベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1 音符や休符の示すリズムと音名を 理解し、正しく読み書きができる。			楽譜によって正しく演奏でる ロディーを正しく記譜する。 できる。		を理解でき、アドバイ 記譜することもできる 楽譜の意味が理解できず、読みき きもできない。				
評価項目	目2 楽器の演奏カ	べできる。	キーボード、リコーダー、- というタイプの異なる楽器 ² 演奏できる。		リコーダー、ギター ご正しく演奏できる	楽器の演奏ができない。			
		項目との関	係						
	数育到達度目 ->=	標 A							
教育方	ī法等								
概要		の価値観	!の多様性を理解するために、音 !り記譜することを行う。また音 .ロディーをつけることも行う。	音楽を聴いて音の組み立て	「を理解し、さらに	い、さらには音楽の文化や歴史、そは集譜の意味を理解して実際に楽譜 アンサンブルを楽しみ、さらに自作を捉え、音楽の文化的歴史的な背景			
授業の近 注意点	進め方・方法	当判定計 の低い内	・人民く組み立てなから授業を退 を把握すると共に評価の資料と の合計点により合否判定を行い 価最大10点を加算もしくは減 1容についての課題提出・ペーパ	草し最終成績とする。なる	お、合合判定成績で	ト・課題提出等を授業の中で行い、 テスト40%、提出課題20%、と 意欲や学習態度の観点から、この合 で60点に満たない者は、到達レベル			
		実技の練	習は自らが意欲的に行い、友人	、同十で助け合うなど効率					
)屋性•履	リコーダ	ー、キーボード等の楽器は大切	、同十で助け合うなど効率					
授業の)属性・履('ティブラーコ	リコーダ 修上の区分	ー、キーボード等の楽器は大切	、同十で助け合うなど効率	図的に行なうことが	大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコーダ 修上の区分	ー、キーボード等の楽器は大切	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 -	図的に行なうことが	大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコーダ 修上の区分 ニング	ー、キーボード等の楽器は大切 ト □ ICT 利用	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 -	区的に行なうことが	大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコーダ 修上の区分	ー、キーボード等の楽器は大切	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 -	図的に行なうことが	大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコーダ 修上の区分 ニング	ー、キーボード等の楽器は大切 ト □ ICT 利用	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対	区的に行なうことが 応 週ごとの到達目様 1 年間の授業のE	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコータ 修上の区分 	「一、キーボード等の楽器は大切	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 受素としくみ	区的に行なうことが 応 週ごとの到達目様	大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコータ 修上の区分 =ング 週 1週	ー、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要素としくみ 歌唱の	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 受素としくみ	本的に行なうことが応過ごとの到達目標1年間の授業の目案のきまりを理解音楽のきまりを理解	大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週	ー、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要素としくみ 歌唱の歌唱と器楽(リコーダー) !	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ □ 遠隔授業対 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	応 過ごとの到達目様 1 年間の授業の目 楽のきまりを理 音楽のきまりを理 音楽を身体で感得	「大切です。			
授業の 図 アク	'ティブラーニ	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週	ー、キーボード等の楽器は大切	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 受素としくみ D基礎 リズム リズム	応 週ごとの到達目標 1年間の授業のきまりを理解のきまりを理解 音楽のきまりを理解 音楽を身体で感得 音楽を身体で感得 能力を身に着ける	大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる 理解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる			
授業の 図 アク	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週	「一、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要 音楽の要素としくみ 歌唱の 歌唱と器楽(リコーダー) 」 歌唱と器楽(リコーダー) 」 歌唱と器楽(リコーダー) 」	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	応 週ごとの到達目標 1年間の授業のきまりを理 音楽のきまりを理 音楽を身体で感得 能力を身に着けるとができる	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる 理解できる □ レ、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ			
授業の 図 アク	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	ー、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要 音楽の要素としくみ 歌唱の 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) : 歌唱と器楽(リコーダー) :	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 要素としくみ D基礎 リズム リズム メロディー メロディー	図のに行なうことが 過ごとの到達目標 1年間の授業の目 楽のきまりを理解 音楽のきまりを理解 音楽を身体で感得 能力を身に着ける とができる 読譜能力を身にえ	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音 ロ できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ			
授業の 図 アク	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	ー、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要 音楽の要素としくみ 歌唱の 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) : 歌唱と器楽(リコーダー) :	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	図のに行なうことが 過ごとの到達目標 1年間の授業の目 楽のきまりを理解 音楽のきまりを理解 音楽を身体で感得 能力を身に着ける とができる 読譜能力を身にえ	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音 ロ できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	ー、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要 音楽の要素としくみ 歌唱の 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) : 歌唱と器楽(リコーダー) :	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 要素としくみ D基礎 リズム リズム メロディー メロディー	本的に行なうことが 過ごとの到達目標 1年間の授業を理解 音楽のきまりを理 音楽を身体で感得 能力を身に着けるとができる 読譜能力を身に着 音楽を注意深く即	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音 ロ できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 ニング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	ー、キーボード等の楽器は大切	、同士で助け合うなど効率 別に使用してください。 □ 遠隔授業対 要素としくみ D基礎 リズム リズム メロディー メロディー	区域のに行なうことが 過ごとの到達目標 1年間の授業の目 楽のきまりを理解 音楽を身体で感得 音楽を身体で感得 能力を引きる 売譜能力を含る 売譜能力を含る 売音楽とができる こことができる こことができる こことができる	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □標と見通しを持つことができる。音解できる □解できる □し、リズムを記譜することができる □とができる音とができる □とができる音楽を注意深く聴くこ □はることができる □を表しません。 □はることができる □にしく記譜する能力を身に着け			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	ー、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	区域のに行なうことが 過ごとの到達目標 1年間の授業の目 楽のきまりを理解 音楽を身体で感得 音楽を身体で感得 能力を引きる 売譜能力を含る 売譜能力を含る 売音楽とができる こことができる こことができる こことができる	「大切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ 以ズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる ことができる音楽を注意深く聴くこまけることができる 徳志、正しく記譜する能力を身に着け ズムで歌うことができる。 『人物の心情を音楽でどう表現してい			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 コ週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	本的に行なうことが	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ □ はることができる □ はるにはるにはるはるにはる □ はるにはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 画	リコータ 修上の区分 こング 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	一、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要素としくみ 歌唱の歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) : 歌唱と器楽(リコーダー) ま 歌唱と器楽(リコーダー) 即 前期中間試験を実施しない 歌唱と器楽(リコーダー) 即	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	 本的に行なうことが 心 過ごとの到達目標準のである。 音楽を身身体である。 音楽を身身体である。 読譜をおかでますが 音楽としい情感が おおからのである。 でしい情感が であるのである。 ではないまする。 ではな	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ □ はることができる □ はるにはるにはるはるにはる □ はるにはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リコータ 修上の区分 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	 本的に行なうことが 地方なうことが 地方なうことが 地方なうことが おりでなり おりでである おきますを見りでである おきますを見りでである おきますを見りますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おきますを見る おりでする おりでする おりますを見る なりまする なりまする	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ 以ズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ はることができる音楽を注意深く聴くこ □ はることができる。 □ はんで歌うことができる。 □ はんで歌うことができる。 □ はんできる。 □ はんでいてきる。			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リコータ 修上の区分 ことの区分 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	 本的に行なうことが 心 加ご年間を見ります。 音楽を身身体であります。 音楽を身身はいる。 一を記述を表する ことがある ことがある	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ 以ズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜するができる □ し、リズムを記譜するができる □ し、リズムを記譜する能力を身に着けることができる □ していてきる □ していていてきる □ していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リコータ 1週 1週 13週 13週 13週 14週 14週	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以び □ 以び □ 以び □ 以び □ は に は に は に は に は に は に は に は に は に は	 本的に行なうことが 心 週ではいる 一とののではいます。 一とののではいます。 一とののではいます。 一とののではいます。 一とのでではいます。 一とのでではいます。 一とのでではいます。 一とのでではいます。 一とのでではいます。 一とのではいます。 ことのではいます。 ことのではいまする。 ことのではいます。 ことのではいます。 ことのではいます。 ことのではいます。 ことのではいますがはいます。 ことのではいますがはいます。 ことのではいますがはいますがはいますがはいますがはいまする。 ことのではいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますが	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □標と見通しを持つことができる。音解できる □型解できる □し、リズムを記譜することができる □とができる音楽を注意深く聴くこ □はることができる音楽を注意深く聴くこ □はることができる。 □はないできる。 □はな			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リコータ Property	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以 □ 遠隔授業対 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ で □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に	 本的に行なうことが 心 加ご年間を見ります。 音楽を身身体であります。 音楽を身身はいる。 一を記述を表する ことがある ことがある	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □標と見通しを持つことができる。音解できる □型解できる □し、リズムを記譜することができる ことができる音楽を注意深く聴くこましなができる。 □はることができる。 □はないできる。 □はない			
授業の	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リロンタ 1 回	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以 □ 遠隔授業対 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ で □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に	本的に行なうことが 週ごに行なうことが 1 本の 1 本の 2 を見ます 1 本の 2 を見まます 2 を見まます 3 を見まます 3 を見まます 4 を見まます 3 を見まます 4 を見まます 3 を見まます 4 を見まますます 4 を見まます 4 を見まますます 4 を見ままます 4 を見ままますます 4 を見ままますます 4 を見まますます 4 を見まますます 4 を見まままままますます 4 を見ままますままままままままままままままままままままままままままままままままま	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこ □ はることができる □ はることができる。 □ はることができる。 □ はることができる。 □ はることができる。 □ はんで歌うことができる。 □ はんでいたができる。 □ はんなでは、 □ はんなでは、 □ はんなでは、 □ はんなでは、 □ はんなでは、 □ はんなでは、 □ はんなできる。 □ はんな			
授業の ファク	ティブラー: 	リの区分 上の区分 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 10週 11週 112週 113週 113週 113週 113週 113週 113週	一、キーボード等の楽器は大切 □ ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 音楽の要 音楽の要素としくみ 歌唱の 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) ? 歌唱と器楽(リコーダー) ! 歌唱と器楽(リコーダー) 即 前期中間試験を実施しない 歌唱と器楽(リコーダー) 即 物語と音楽 リコーダー リコーダー リコーダー ロリコーダー 音楽の要素としくみ 音楽の要素としくみ 育楽の要素としくみ 前期期末試験を実施しない 創作	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以 □ 遠隔授業対 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ で □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に	本的に行なうことが 「地域のでは、	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ ことができる音楽を注意深く聴くこまけることができる □ はることができる □ はることができる。 □ はることができる。 □ はることができる。 □ はることができる。 □ はないできる。 □ はいないできる。 □ はいないないないないないないないないないないないないないないないないないないな			
授業の ② アク 授業計	ディブラー <u>:</u> 1stQ	リロンタ 1 回	一、キーボード等の楽器は大切	に使用してください。 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 遠隔授業対 □ 以 □ 遠隔授業対 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ は □ で □ は □ は □ で □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ は □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に □ に	本的に行なうことが 週ご年の明 音楽を見りでであります。 音楽を見りでであります。 音楽を見りでであります。 音楽を見りでであります。 一をはいるであります。 一をはいるであります。 一をはいるであります。 一をはいるではいる。 一をはいるではいる。 一をはいるではいる。 ではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいるではいる。 ではいるではいるではいる。 ではいるではいる。 ではいるではいるではいる。 ではいるではいるではいるではいる。 ではいるではいるではいるではいるではいる。 ではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいるではいる	法切です。 □ 実務経験のある教員による授業 □ 実務経験のある教員による授業 □ 標と見通しを持つことができる。音解できる □ リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ し、リズムを記譜することができる □ はることができる □ はることができる □ はることができる □ はることができる。 □ はんで歌うことができる。 □ はんでいたができる。 □ はんでいたができる。 □ はんなでは、カを理解する。 □ はんなでは、カを理解する。			

		4週	創作 器楽(キー	-ボード)		自作の詞にメロデ	ィーをつけ、	発表することができる		
		5週	 音楽史 絵画と音楽	K S		。 音楽の文化的、歴9	上的な背景を			
		6週	音楽史 絵画と音	-		音楽の文化的、歴史				
		7週	音楽史 絵画と音	 译		音楽の文化的、歴史	史的な背景を	を理解できる		
		8週	後期中間試験を実施	回しない						
		9週	アメリカ大陸の音楽	Ŕ		諸民族の音楽的特徴を捉えることができる。				
		10週	ドイツの音楽			諸民族の音楽的特征	数を捉える。	ことができる。		
		11週	イタリアの音楽			諸民族の音楽的特徴を捉えることができる。				
	4thQ	12週	合唱と合奏(アニ>	(・メドレー)		有名な曲を演奏する アンサンブルを楽し				
	Č	13週	合唱と合奏(アニン	く・メドレー)		有名な曲を演奏する アンサンブルを楽し	ることができ しむことが ^っ	きる。 できる。		
		14週	混声四部合唱			バーモニーを感じながらリズム・メロディーを正しく 歌うことができる。 バーモニーを感じながらリズム・メロディーを正しく 歌うことができる。				
		15週	混声四部合唱							
		16週	後期期末試験を実施	もしない						
モデルコ	アカリ:	キュラムの)学習内容と到達	目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	標			到達レベル 授業週		
評価割合	·									
	討	験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割	合 80	0	0	0	0	20	0	100		
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	0	100		
専門的能力	0		0	0	0	0 0 0				
分野横断的	能力 0		0	0	0	0	0	0		

	\$丁 坐 高≌		開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	公共A
科目基础		XI ELILI	<u>又一年</u> 41111				147 V 1
科目番号	ᄣᄪ	0010			科目区分	一般 / 必	修
授業形態		講義			単位の種別と単位		
開設学科		一			対象学年	1	
<u>用設子件</u> 開設期		前期	ー/J ±j'		週時間数	2	
では、大学			こうない はんしゅう しゅうしゅう しゅう		1		数研出版、2021年)
教科書/教	材	☆副教札 研出版、	オ:数研出版編集部 2021年)、出 金を考える』(帝国	扁『教科書準拠版 Ⅱ清一編『公共10	高等学校 公共ー- 分間テスト』(山川	-これからの社会 出版社、202	について考える 整理ノート』(数
担当教員		細見佳					
<u></u>			<u>, </u>				
1. 民主i 2. 選挙	 政治・日本 ・政党・地	国憲法と統決 方自治・政決 知識を身にご	台機構についての基礎 台参加についての基礎 つける。	楚知識を身につける 楚知識を身につける	•		
<u>ルーブ!</u>	リック						
			理想的な到達レ	ベルの目安(優)	標準的な到達レベ	いの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目	1		民主政治・日本 についての基礎 ついている。	国憲法と統治機構 知識が十分に身に	民主政治・日本国 についての基礎知いる。	憲法と統治機構 識が身について	民主政治・日本国憲法と統治機構 について理解できておらず、それ らの基礎知識が身についていない 。
評価項目	2			方自治・政治参加知識が十分に身に	選挙・政党・地方についての基礎知いている。		選挙・政党・地方自治・政治参加 についての基礎知識が身について いない。
評価項目	3		国際政治の基礎ついている。	知識が十分に身に	国際政治の基礎知いている。]識が概ね身につ	国際政治の基礎知識が身についていない。
	到達日煙1	 項目との関					
	可建立(赤) 育到達度目		O IVIV				
教育方法		DK 71					
概要		公共Aで	は、政治学・日本国 2紹介することで、》	 憲法・統治機構・ アノ研解していきま	国際政治を勉強しま	す。中学校までは	こ習った事項を、背景知識やより詳細
注意点		・教科 ・教科 ・途中 ・携帯電 ・居眠	を的には、「公共A」 科目】社会科の科目程 と副教材は必ず毎頃 とこのでは、はいた場合も、時間 ではしないこと。 と生に迷惑となる行れ ものガイダンスで、で	詳 回持参してください 聞に応じて、遅刻・ ンの電源は切ってお	。毎回にわたり持参 欠席とします。 くこと。	参しない場合は、	ます。 滅点の対象とします。
授業の歴	属性・履信						
	ティブラーニ		□ ICT 利用		② 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
.— = 1 =	_						
授業計画	曲	1	I		T.		
		週	授業内容		The state of the s	週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス民主政治と基本的	人権			b方、ルール、目標を理解できる。民 、権を理解できる。
		2週	権力分立と法の支				で配を理解できる。
		3週	日本国憲法と基本				に 「原理を理解できる。
	1stQ	4週	平等権・自由権)概念と判例を理解できる。
	IsiQ	5週	社会権・参政権・				請求権を理解できる。
		6週	人権の広がり	J		<u> 「新しい人権」</u> を	
		7週	国会のしくみと役	 割	1,		と割を理解できる。
		8週	復習・小テスト第				
前期		9週	内閣のしくみと行		<u> </u>	 内閣のしくみと?	- 丁政機構を理解できる。
		10週	選挙の役割と意義			選挙の役割と意義	
		11週	政党の役割			政党の役割を理解	-
				· 田里百			
	2ndQ	12週	地方自治の現状と				∠課題を理解できる。 ☆参加・国際社会と国際法を理解でき
		13週		参加・国際社会と国	除法	る。	
		14週	戦後の国際情勢・		<u> </u>	戦後の国際情勢・	現代の国際紛争を理解できる。
		15週	総復習・小テスト	おと凹			
		16週 + = 0	一番羽市南にから				
	<u> コパガリ</u>)学習内容と到達		Lette		2017年1 -2017 1空2000
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	崇		到達レベル 授業週

				人間と自然環境との 文化の多様性を理解 性について考察でき	qし、異なる文化・	こしつつ、民族、宗 社会が共存するこ	教、生活 との重要	2	
	1 + + + - + + + + + + + + + + + + + + + 			これまでの哲学者や キャリア構築を含む 、他者と共に生きて のあり方について表	3生涯にわたる多様 こいくことの重要性	掛かりにしつつ、 な自己形成に関す 、及び望ましい社	より良い る考え方 会や世界	2	
基礎的能力	人文社会科 学	社会		自己が主体的に参画 義などの基本原理と 現代社会の諸課題に	基礎的な政治・法	・経済の仕組みを		3	
				現代社会の特質や語 して探究し、その原 通して、世界の人々 ついて人文・社会科 、表現できる。	战果を論述したり討 ₹が協調し共存でき	İ論したりするなど ₹る持続可能な社会	の活動を	3	
評価割合									
	試験	升	法	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	-
総合評価割合	î 100	0		0	0	0	0	100	
基礎的能力	100	0		0	0	0	0	100	

金川足		事門学	交 開講年度 令和06年度			公共B
	位工業的、 一種情報	ו ניובצב.		(2021—12)		Z/0
14日 <i>圣</i> 2 科目番号		0011		科目区分	一般 / 必	攸
74日留5 授業形態		講義		村日区ガ 単位の種別と単位		
文美形態 開設学科			学 八丽			1
	+	情報工	子分野	対象学年	1	#
開設期		通年	***************************************	週時間数	前期:2後	, ,-
教科書/教	教材		:数研出版 『高等学校 公共ーーこれ を考える」、福岡伸一 小学館新書 [帝国書院「フイノ!2023 公共、均
担当教員	Į	山内 -	-美,瀧川 貴利			
到達目	標					
て必要な	資質を自分		相についての知識と理解を深め,社会 けるようになる。	会に対峙するための判断	断力の基礎を培い	, 主体的に社会を構成する人間とし
レーブ	`リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ	いの目安	未到達レベルの目安
平価項目]1		経済的・政治的視点を思考のツールとして自身に内在化し、社会で理解する道具として使いこなするとができる。	を 「し,社会を知るた	めの切り口のひ	経済・政治的視点をもって社会を 見ることができない。
評価項目	12		複合的・全体的に物事を見る思力を身につけ、それを自身の力はして世界や社会に対峙し、自分であり方生き方を生涯にわたり追ばしていける。	と 社会には様々な視 の 理解し、複合的に	自身の身の周り	人間社会の多様性を理解できない 。
学科の	到達目標	 項目との	 関係			
	対育到達度目					
<u> </u>						
<u>秋月刀</u> 既要	(以付	7+AA	 一員として自覚的に、かつ主体的に生	ニキアハノたみの 甘士	ト的か加強レ母会	か判断力を良につける
以女			一負として自見的に、かつ土体的に生 判定: 定期試験(80%) + 課題学		アリンは記し、ほ生	はさき いっぱん カス しょう
	≝め方・方法	・前提・関連	格者については, 再試験または課題学 となる知識:中学校の社会科の知識 科目:公共A、倫理社会、法学、歴史			
主意点			りません			
	属性・履					
□ アク	ティブラー	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
受業計	·画					
		週	授業内容	ì	週ごとの到達目標	<u> </u>
		1週	経済とは何か〜経済の三主体	ń	経済の三主体にて	いて理解できる。
		2週	現代の企業 (1)	1	企業の概要につい)て理解できる
		3週	現代の企業(2)	ſ		
		4週	現代の企業(3)		 司上	
	1stQ	5週	現代の市場(1)			こついて理解できる
		6週	現代の市場(2)		<u> </u>	
		7週	経済をはかる(1)			 oの様々な指標について理解できる
		8週			<u> </u>	のがなる。日保について生産できる
前期	-	9週	経済をはかる(2) 経済に現れる現象(1)			
			経済に現れる現象(2)		日月に先行る様々 司上	は現象について珪牌できる
		10週	,			9
		11週	政府の経済活動(1)		財政について理解	∮じさる
	2ndQ	12週	政府の経済活動(2)	· ·	司上	
		13週	租税と社会(1)	 ₹	税制の概要と社会	との関わりについて理解できる
		14週	租税と社会(2)	F	司上	
		15週	租税と社会(3)	ſ	司上	
		16週	前期末試験			
	1	L.,	金融のしくみとはたらき (1)		金融の概念と経済 解できる	脊社会で果たしている機能について 理
		1週				
			金融のしくみとはたらき (2)		司卜	
		2週	金融のしくみとはたらき (2)	Г	司上 中央銀行の役割 <i>に</i>	
		2週	中央銀行の役割(1)	[i	中央銀行の役割に	こついて理解できる
 参期	3rdQ	2週		F C F	中央銀行の役割に 司上 国を越える経済取 できる。そのなか	引のしくみとその現状について理解
 後期	3rdQ	2週 3週 4週 5週	中央銀行の役割(1) 中央銀行の役割(2) 国際経済のなかの日本(1)	7 - - - -	中央銀行の役割に 司上 国を越える経済取 できる。そのなか 考察できる	引のしくみとその現状について理解
	3rdQ	2週 3週 4週 5週 6週	中央銀行の役割(1) 中央銀行の役割(2) 国際経済のなかの日本(1) 国際経済のなかの日本(2)		中央銀行の役割に 司上 国を越える経済即 できる。そのなか 考察できる 司上	こついて理解できる 対引のしくみとその現状について理解 いで日本経済がかかえる課題について
後期	3rdQ	2週 3週 4週 5週 6週 7週	中央銀行の役割(1) 中央銀行の役割(2) 国際経済のなかの日本(1) 国際経済のなかの日本(2) 国際経済のなかの日本(3)	7 7 9 7 7 7	中央銀行の役割に 司上 国を越える経済即 できる。そのなか 考察できる 司上 司上	引のしくみとその現状について理解
乡 期	3rdQ 4thQ	2週 3週 4週 5週 6週	中央銀行の役割(1) 中央銀行の役割(2) 国際経済のなかの日本(1) 国際経済のなかの日本(2)	7 7 8 7 7 7	中央銀行の役割に 司上 国を越える経済即 できる。そのなか 考察できる 司上 司上 司上	引のしくみとその現状について理解

	10週	国民生活と経済(2	!)		同上			
	11週	国民生活と経済(3	3)		同上			
	12週	社会保障制度(1)			社会保障制度の概要を考察できる	要について	理解し、これ	こからの課題
	13週	社会保障制度(2)			同上			
	14週	労働問題(1)			労働者をとりまく3ありかたを考察で	現状と課題 きる	!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!	解し、自身の
	15週	労働問題(2)			同上			
	16週	後期末試験						
モデルコアカ	リキュラムの)学習内容と到達	目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目]標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合語	†
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	10)
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	10)
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

釧路工業高等専	門学校	開講年度	令和06年度 (2	024年度)	授業科目	美術
科目基礎情報						
科目番号	0013			科目区分	一般/選	択
授業形態	実技			単位の種別と単位数	效 履修単位	: 2
開設学科	情報工学分野			対象学年	1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	高校学校美術 出書房新社、	1 (光村図書出『やさしい美術	版)、参考書:『6 解剖図ー人物デッ!	色彩・配色・混色ー ナンの基礎』マール	美しい配色と混 社、『13歳か	性のテクニックをマスターする』河 いらのアート思考』ダイヤモンド社
担当教員	加藤 直樹,林	幸利,磯 優子				
到達目標						
自然や物、人物をよく観楽しさを味わい、さらは現技術を身につけ、制作	見ることにより には美術文化や F課題を受け止	、豊かな感性、 その価値観の多 め表現すること	情操を身につける。 様性をも理解でき ができる。	と同時に、心をこめる。以下の3つの観点	た作品づくりを 気から、基礎的	通して、表現の中が広がり、美術の 「デッサン」「色づくり」を学び、表

- 31. 三房色と多様な色の関係を理解し、様々な色を作り出す 2. デザインの基礎を理解し、バランスよく彩色する 3. 自分のイメージに基づいた立体を作成する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 三原色と多様な色の関係を理解し 、様々な色を作り出すことができ る。	三原色から自分の思い通りの色を 作り出すことができる。	三原色から自分のイメージに近い 色を作り出すことができる。	三原色からいろいろな色を作り出 すことができない。
評価項目2 デザインの基礎を理解し、色や面 積のバランスを考えて彩色するこ とができる。	デザインの基礎を理解し、様々な 条件に従って、色・面積のバラン スのとれた彩色ができる。	デザインの基礎をほぼ理解し、色 ・面積のバランスを考えて彩色が できる。	デザインの基礎が理解できず、バ ランスを考えて彩色できない。
評価項目3 素材を加工することで立体をつく ることができる。	イメージ通りの立体を正確に作る ことができる。	イメージに近い立体を作ることが できる。	立体を作り上げることができない 。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A

教育方法等

概要	自然や物、人物をよく観ることにより、豊かな感性、情操を身につけると同時に、心をこめた作品づくりを通して、表現の中が広がり、美術の楽しさを味わい、さらには美術文化やその価値観の多様性をも理解できるようになるために、授業では基本的デッサン、色づくりを学んで「手」や「風景」を描いたり、デザインの基礎を学んで想像力を働かせて舞台装置のデザインをしたり、さらには素材を加工して立体構成の作品を作成したりする。
授業の進め方・方法	作品制作を中心とする。 提出された課題(作品)を80%、授業態度(道具の準備も含む)を20%ととして算出した点数の合計点により、合否 判定を行う。60点以上を合格とする。 試験は実施しない。 最終評価は合否判定点と同じである。
注意点	制作に必要な道具を忘れないこと。(鉛筆2H・B・3Bを各1、消しゴム、スケッチブック、絵の具セット一式等) 美術の楽しさ、おもしろさ、深さを体験しよう。

授業の属性・履修上の区分

☑ アクティブラーニング □ ICT 利用

授業計画	Ī		
	追	授業内突	调プトの到達日標

□ 遠隔授業対応

□ 実務経験のある教員による授業

		旭	1又未271台	週ととの封建日保
		1週	ガイダンス・手のデッサン	美術表現のための道具について理解できる。 なぜ美術を学ぶのか、その目的を理解できる。
		2週	色をつくる	色は「つくるもの」であることを学び、身につけることができる (色の三原色について)。
	1stQ	3週	色をつくる	色は「つくるもの」であることを学び、身につけることができる (色の三原色について)。
		4週	色で描く(手を描く)	・モデル(手)を見て描くことができる
		5週	色で描く(手を描く)	・モデル(手)を見て描くことができる
		6週	色で描く(抽象画)	・モデルなしで描くことができる
AAA 世日		7週	色で描く(抽象画)	・モデルなしで描くことができる
前期		8週	色で描く(抽象画)	・モデルなしで描くことができる
		9週	風景を描く	・自然をよく観て感じ、豊かな表現〔描写〕ができる ようになる。 ・「三原色」からどんな色でも作れるようになる。 ・鉛筆下がきなしで描くことができる。
	2ndQ	10週	風景を描く	・自然をよく観て感じ、豊かな表現〔描写〕ができる ようになる。 ・「三原色」からどんな色でも作れるようになる。 ・鉛筆下がきなしで描くことができる。
		11週	ものをつくる	・用途やデザインを踏まえ、様々な素材から立体的な 造形をすることができる。
		12週	ものをつくる	・用途やデザインを踏まえ、様々な素材から立体的な 造形をすることができる。

		13週	風景を	を描く			ようになる。	どんな色で	な表現〔描写〕ができる も作れるようになる。 ができる。
		14週	風景を	を描く			・自然をよく観て! ようになる。	感じ、豊か	な表現〔描写)ができる も作れるようになる。
		15週	風景を	ご描く			・自然をよく観て! ようになる。	感じ、豊か	な表現〔描写)ができる も作れるようになる。
		16週	試験(は実施しない			#II 1 7 C 10 C	<u> </u>	,, cc & (
		1週	平面構	構成(彩色)			・デザインの基礎 ・「条件」をふま ・色や面積のバラ	えて描くこ	とができる。
		2週	平面構	構成(彩色)			・デザインの基礎 ・「条件」をふま ・色や面積のバラ	えて描くこ	とができる。
		3週	平面構	構成(彩色)			・デザインの基礎 ・「条件」をふま」 ・色や面積のバラ	えて描くこ	とができる。
	3rdQ	4週	平面デ	デザイン			できる。 ・平面デザインの	基本的な考	
	JiuQ	5週	平面デ	デザイン			・本 (物語や脚本) できる。 ・平面デザインの		想像力を働かせることが え方が分かる。
		6週	平面デ	デザイン			・本 (物語や脚本) できる。 ・平面デザインの		想像力を働かせることが え方が分かる。
		7週	平面デ	デザイン			・本 (物語や脚本) できる。 ・平面デザインの		想像力を働かせることが え方が分かる。
後期		8週	平面デ	デザイン			・本 (物語や脚本) できる。 ・平面デザインの		想像力を働かせることが え方が分かる。
		9週	立体構	 構成					をつくることができる。 することで作品を制作で
		10週	立体構	 構成			・段ボールなどを ・折る、切る、曲 きる。	使って立体 げる、接着	をつくることができる。 することで作品を制作で
		11週	立体構	 構成			・段ボールなどを ・折る、切る、曲 きる。	使って立体 げる、接着	をつくることができる。 することで作品を制作で
	4thQ	12週	立体構	 構成					をつくることができる。 することで作品を制作で
		13週	自画像	象を描く			・自分とは何か。」 生きた自分 を描くことができ		面の形)だけではなく、
		14週	自画像	象を描く			・自分とは何か。」 生きた自分 を描くことができ		面の形)だけではなく、
		15週	自画像	象を描く			・自分とは何か。」 生きた自分 を描くことがで		面の形)だけではなく、
		16週		は実施しない					
モデルコ	アカリ	キュラムの		内容と到達					
分類		分野		学習内容	学習内容の到達	目標			到達レベル 授業週
評価割合					1			T	
40 C == ::		は験	発表	表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割			0		0	20	80	0	100
基礎的能力			0		0	20	80	0	100
専門的能力			0		0	0	0	0	0
分野横断的	1月ピノノ 0		Įυ		IO	0	0	0	U

釧路	 Y工業高等	 穿専門学校	開講年度 令和06年度((2024年度)	授業科目	倫理社会
科目基礎			1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2			
科目番号	-117110	0014		科目区分	一般 / 必	
授業形態		講義		単位の種別と単位		
開設学科		情報工学	· · 分野	対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/教	材	(2007:	実教出版 『詳述倫理』 参考書:参 年)、ゲルバルト・エルンスト『哲学 ミラルアーツ』、東京大学出版会 (20:	のきほん』、早川書詞	界一やさしい問題 房(2017年)、	顧解決の授業』、ダイヤモンド社 石井洋二郎/藤垣裕子『大人になるた
担当教員		池田 裕韓	浦			
到達目標						
目的:これ 到達目標 1	1から社会(1:哲学や)	のなかで生活 思想に関する	らずるにあたって必要となる批判的思え 3正確な知識を身に着けたうえで、批判	考や問題設定の実地訓 判的に思考し、また、	練をおこなう。 自分なりの仕方	で様々な問いを立てることができる
		思想の知識を	ともとに、自身の考えを論理的かつ説得	得的に表現することだ	ができる。	
ルーブリ	ノック		T	1		T
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ	ルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	L		哲学・思想に関する知識を正確に 身に着けて、批判的に思考するだ けでなく、自分なりの仕方で問い を立てることができる。	当子で忠忠に関す	る知識を正確に 的に思考するこ	哲学や思想に関する知識を身に着けておらず、また、批判的に思考することができない。
評価項目 2	2		哲学・思想の知識をもとに、自身 の考えを論理的かつ説得的に表現 することができる。	哲学・思想の知識の考えを表現する	をもとに、自身 ことができる。	哲学・思想の知識をもとに、自身 の考えを表現することができない 。
 学科の至	到達目標 ^I	 項目との関		•		•
	到達度目 音到達度目					
<u> </u>						
概要		れるもの ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「他人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人	GCの場合)振り凹⊂ としているか(上述の よいことに原因があり −階vs−階Lの闘い	31にりしていま)例を参照)、あ)ます(具体例を)やうまく機能	9か、一般に「図み(争)」と呼ばるいは、「二階の欲求」そのものが考えてみてください)。「哲学」や「ない」「四階の欲求」を理論的に解
授業の進め	か方・方法	基礎知識合合不必要ない。	版に関する講義をおこない、そのうえで 三: 定期試験(前期未試験&後期末記 別定点=最終評価点 別者については,再試験・課題学習の記 は用具:教科書、資料集およびノートに なる知識:中学校の社会科の知識 付目:公共A、公共B	で、講義内容に基づし 式験)(100%) ≧ 60; 平価が60点以上であれ	たワークや討論 点 1ば合格とする。	をおこなう。
注意点		特になし	/o			
授業の原	属性・履何	修上の区分	}			
□ アクテ	-ィブラーニ	ニング	□ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	回					
		週	授業内容	ì	週ごとの到達目標	≅
		1週	ガイダンス			
		2週	哲学 (的訓練) とは?	2	クを通じて体験す	Zなう、哲学的訓練の進め方を、ワー することを通じて、授業の進め方やル ごけでなく、自身の考えを表現するこ
		3週	ギリシア思想①	Ī	5代ギリシアの思	思想に関する基礎知識を獲得し、批判 た、自身の考えを表現することがで
	1stQ					
	1stQ	4週	ギリシア思想②		引上。	
	1stQ	4週 5週	ギリシア思想② ギリシア思想③	Г		
前期	1stQ			[i	司上。	
前期	1stQ	5週	ギリシア思想③	F	司上。 司上。	
前期	1stQ	5週 6週	ギリシア思想③ ギリシア思想④	F	司上。 司上。 司上。	
前期	1stQ	5週 6週 7週 8週 9週	ギリシア思想③ ギリシア思想④ ギリシア思想⑤		司上。 司上。 司上。 司上。 キリスト教に関す レ、、また、自身	「る基礎知識を獲得し、批判的に思考 引の考えを表現することができる。
前期	1stQ	5週 6週 7週 8週 9週 10週	ギリシア思想③ ギリシア思想④ ギリシア思想⑤ これまでのまとめ キリスト教① キリスト教②		同上。 同上。 同上。 同上。 中リスト教に関す レ、、また、自身 同上。	
前期	1stQ 2ndQ	5週 6週 7週 8週 9週	ギリシア思想③ ギリシア思想④ ギリシア思想⑤ これまでのまとめ キリスト教①	F F F F F	同上。 同上。 同上。 同上。 中リスト教に関す レ、、また、自身 同上。 同上。	の考えを表現することができる。
前期		5週 6週 7週 8週 9週 10週	ギリシア思想③ ギリシア思想④ ギリシア思想⑤ これまでのまとめ キリスト教① キリスト教②	F F F F F	同上。 同上。 同上。 同上。 中リスト教に関す シ、、また、自身 同上。 「日上。 イスラームに関す	

		14週	仏教②)			同上。			
		15週		でのまとめ						
		16週	前期末							
		1週	近代思	想の成り立ち	50		近代思想とその成り 批判的に思考し、、 ができる。	O立ちに関 また、自	する基礎知識 身の考えを表	を獲得し、現すること
		2週	近代思	想の成り立ち	52		同上。			
	3rdQ	3週	近代思	想の展開①			近代思想の展開に思考し、、また、			
	3.44	4週	近代思	想の展開②			同上。			
		5週	近代思	想の展開③			同上。			
		6週	近代思	想の展開④			同上。			
		7週	近代思	想の展開⑤			同上。			
		8週	これま	でのまとめ						
後期		9週	現代思	想の成り立ち	51)		現代思想の成り立て 的に思考し、、また きる。			
		10週	現代思	想の成り立ち	52		同上。			
	4thO	11週	現代思	想の展開①			現代思想の展開に思考し、、また、	関する基礎 自身の考え	知識を獲得し を表現するこ	、批判的にことができる
	13.1.4	12週	現代思	想の展開②			同上。			
		13週	現代思	想の展開③			同上。			
		14週	現代思	想の展開④			同上。			
		15週	これま	でのまとめ						
		16週	後期末	試験						
モデルニ	 アカリキ	ニュラムの		内容と到達	 目標					
分類	., ,,,,	分野		<u></u> 学習内容	学習内容の到達目	 標			到達レベル	授業调
					人間と自然環境と 文化の多様性を理 性について考察で	解し、異なる文化	きとしつつ、民族、宗 ム・社会が共存するこ	教、生活 との重要	2	
基礎的能力	人文社会	会科 社会	:	社会	キャリア構築を含	む生涯にわたる多 ていくことの重要	手掛かりにしつつ、 様な自己形成に関す 性、及び望ましい社	る考え方	2	
					現代社会の特質や して探究し、その 通して、世界の人	課題に関する適切 成果を論述したり 々が協調し共存で	Jな主題を設定し、資 討計論したりするなど きる持続可能な社会 であり、多角的に考察	の活動を	3	
評価割合	ì									
	試馬	· ()	発表	₹	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	

_,,,	路上兼局₹	等專門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授美	美科目 姜	数学B
科日甚	礎情報	3 (3) 3 12	12.12.12.12.12.12.12.12.12.12.12.12.12.1		32421	×1 1 12	
<u>17口坐</u> 科目番号		0015		科目区分	T-		5
授業形態		講義		単位の種別と単位			
反耒形態 開設学科		一 <u>神我</u> 情報工等	→ 分中系	対象学年			
用設子心 開設期	1	通年	ナルギ	対象子年 週時間数	1	<u> </u>	
				1 - 11 - 12 - 1			大口木図聿)
教科書/勃	教材	製料書 専の数等	:新 基礎致子 以司从(入口本凶音),1 学1問題集(森北出版)	可越来; 析 基礎致一	子 问 起 果	CXEJNX ()	人口本凶音) ,
担当教員		宮毛 明	子,若狭 恭平,池田 盛一				
到達目	標						
距離・分	点を求める	値を求める。 描くことが ことができ,	ことができ,加法定理及びその応用を利 できる。 . 直線・円の方程式を求めることができ	l用できる. :る.			
<u>ルーフ</u>	リック			T			T. =
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク			未到達レベルの目安
評価項目	1		相互関係,加法定理を活用して様々な問題を解くことができる.	三角比の値を求め ,相互関係,加法 用できる.	なことだままで	ができ 公式を利	三角比の値を求めることができない、加法定理の公式を覚えていない。
評価項目	12		三角関数を伸縮・平行移動したグラフを描くことができる.	三角関数を伸縮しことができる.	」たグラ :	フを描く	三角関数のグラフを描くことができない.
評価項目3			軌跡や平行・垂直条件などを活用 して、点の座標、直線・円の方程 式を求めることができる.	距離・分点の座標線・円の方程式をきる. 円を標準用の座標及び半径をきる.	で求める。	ことがで	距離・分点の座標を計算できず , 直線・円の方程式を求めること ができない.
 学科の	到達目標	項目との	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	•			•
	有到達度目						
」。 教育方							
	ルサ	古門 公甲	野で早期に必要となる三角関数の基本的	か性質・小式・グラ	ラフを珊	解1. 床日	 Bすろ力を養わせス
既要		後期後	半では平面図形のうち直線・円の方程式	を学習させる.)) ·C+±	л+О, <i>п</i> ыл	コップグラで良力であ.
		一円試験(は、前期末、後期末、学年末に実施する は数学の評価規準に基づき別に定める.	西囲で加減する.			こうに準備しておくこと.
注意点		詳しく(後関連和 授業のP とが大t	は数学の評価規準に基づき別に定める. 斗目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 切である.		責極的に	質問する。	
	属性・履	詳しく(後関連和 授業のF とが大t 授業ノ-	は数学の評価規準に基づき別に定める. 対目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 別である. −トは数学Aと別にすること.		責極的に	質問する。	
授業の	属性・履f ティブラー:	詳しく(後関連和 授業のP とが大t 授業ノ-	は数学の評価規準に基づき別に定める. 対目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 別である. −トは数学Aと別にすること.			質問する。	さらに努め, さらに後で復習するこ
授業の □ アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業のP とが大t 授業ノ-	は数学の評価規準に基づき別に定める. 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには, ノート のである. -トは数学Aと別にすること.	・ をきちんととり, 和		質問する。	
授業の □ アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業の所とが大t 授業ノー	は数学の評価規準に基づき別に定める. 対目:数学A,B,C (2年) 対容を十分に理解するためには, ノート 切である. - トは数学Aと別にすること. - ・ ICT 利用	をきちんととり, 和 図 遠隔授業対応			さらに努め, さらに後で復習するこ
受業の 〕 アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業が大 授業ノ・ 修上の区分 ニング	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C (2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 切である。 - トは数学Aと別にすること。 → LCT 利用	・ をきちんととり, 和 ② 遠隔授業対応	<u>週ごとの</u>)到達目標	に
受業の 〕 アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業の所とが大t 授業ノー	は数学の評価規準に基づき別に定める. 対目:数学A,B,C (2年) 対容を十分に理解するためには, ノート 切である. - トは数学Aと別にすること. - ・ ICT 利用	・ をきちんととり, 和 ② 遠隔授業対応	<u>週ごとの</u>)到達目標	さらに努め, さらに後で復習するこ
受業の 〕 アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業が大 授業ノ・ 修上の区分 ニング	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C (2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 切である。 - トは数学Aと別にすること。 け □ ICT 利用 □ ICT 利用	をきちんととり、利図 遠隔授業対応	週ごとの 鋭角の三)到達目標	に
受業の 〕 アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授業が大 授業ノー 修上の区分 ニング 週 1週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C (2年) 内容を十分に理解するためには, ノート 切である。 - トは数学Aと別にすること。 → ICT 利用 「授業内容 ガイダンス 鋭角の三角比	をきちんととり、私口 遠隔授業対応	週ごとの 鋭角の3 鈍角の3)到達目標 ・角比を求る ・角比を求る	たうに努め, さらに後で復習するこ □ 実務経験のある教員による授 めることができる.
授業の □ アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授が大大 授業ノー 修上の区グ ニング 週 1週 2週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 	をきちんととり、和田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	週ごとの 鋭角の三 鈍角の三 三角比の 正弦定理)到達目標 :角比を求る :角比を求る :角比を求る :利三関係 !を利用し	ように努め, さらに後で復習するこ
授業の □ アク	ティブラー	詳しく(後関連和 授とが業ノー 修上の区グ ニング 週 1週 2週 3週 4週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 別である。 - トは数学Aと別にすること。 - トは数学Aと別にすること。	をきちんととり、和田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	週ごとの 鋭角の三 鈍角の三 三角比の 正弦定理 半径をす)到達目標 「角比を求る 「角比を求る り相互関係 で利用しま なることだ	ように努め, さらに後で復習するこ
授業の □ アク	ティブラー:	詳しく(後関連和 投票が大 授業ノー 修上の区グ ニング 週 1週 2週 3週	は数学の評価規準に基づき別に定める。	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週ごとの 鋭角の三 鈍角の三 三角比の 三角と定す で発を定す できる。	対達目標 角比を求る 角比を求る 相互関係 を利用し なめること。	はつに努め、さらに後で復習することができる。 □ 実務経験のある教員による授業 めることができる。 を使うことができる。 て、三角形の辺や角および外接円のができる。 て、三角形の辺や角を求めることが
授業の □ アク	ティブラー:	詳しく(後関連和 授とが業ノー 修上の区グ ニング 週 1週 2週 3週 4週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 別である。 - トは数学Aと別にすること。 - トは数学Aと別にすること。	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週ごとの 鋭角の三 鈍角の三 三角比の 三角と定す で発を定す できる。	対達目標 角比を求る 角比を求る 相互関係 を利用し なめること。	ように努め, さらに後で復習するこ
授業の □ アク	ティブラー:	詳後関連の 授と授の 上グ 修上グ 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 切である。 - トは数学Aと別にすること。 ・ ICT 利用 授業内容 ガイダンス 鋭角の三角比 鈍角の三角比 三角比の相互関係 正弦定理 余弦定理 三角形の面積	をきちんととり、和	週ごとの 鋭角の三 ・	2到達目標 通比を求る 角比を求る 利耳互関係 であること で利用し でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもなるでもない。	 こうに努め、さらに後で復習するこ □ 実務経験のある教員による授助 めることができる。 を使うことができる。 て、三角形の辺や角および外接円のができる。 て、三角形の辺や角を求めることができる。 て、三角形の辺や角を求めることができる。
授業のフク	ティブラー:	 	は数学の評価規準に基づき別に定める。 日:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノート 別である。 トは数学Aと別にすること。 ト は数学Aと別にすること。	をきちんととり、和	週ごとの	2到達目標 通比を求る 角比を求る 利耳互関係 であること で利用し でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもあることが でもなるでもない。	 こうに努め、さらに後で復習するこ □ 実務経験のある教員による授めることができる。 かることができる。 を使うことができる。 て、三角形の辺や角および外接円のができる。 て、三角形の辺や角を求めることができる。
授業のプク	ティブラー:	詳後関連の 接受が業ノー 修上グ 週 1週 週 3週 4週 5週 6週 7週 8週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノート のである。 トトは数学Aと別にすること。 け	をきちんととり、和	週ごとの 鋭角の三 三正半余で三角 三正半余で三角 三正半余で三角 三面の 三面の 三面の 三面の 三面の 三面の 三面の 三面の	到達目標 角比を求る 利耳互関係 を利用した。 を利用した。 を利用した。 ででであることである。 でであることである。 でであることである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて	はつに努め、さらに後で復習することができる。 □ 実務経験のある教員による授 めることができる。 を使うことができる。 を使うことができる。 て、三角形の辺や角および外接円のができる。 て、三角形の辺や角を求めることが めることができる。 つ、三角形の辺や角を求めることが のことができる。
授業のプク	ティブラー:	 	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノート 切である。 一トは数学Aと別にすること。 → ICT 利用 授業内容 ガイダンス 鋭角の三角比	をきちんととり、和図 遠隔授業対応	週 鋭角の三 正半余で三へき 一・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	到達目標 角比を求め 利互関係 2を利用こと 2を利用した 2を利用して 2を利用し 2を利用して 2を利性 2を利性 2を利性 2を利性 2 2 性 2 性 2 性 2 性 2 性 2 性 2 性 2 性 2 性	は ま うに
授業のフク	ティブラー:	詳後野点の を 接受を を 上グ 週 1週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 切である。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をきちんととり、和図 遠隔授業対応	週ごとの	到達目標 角比を求め 角互関係 をある利用こと を利力で表 の面積を求め が立式を使った。 で理解し、	はつに努め、さらに後で復習することができる。 □ 実務経験のある教員による授 めることができる。 を使うことができる。 を使うことができる。 て、三角形の辺や角および外接円のができる。 て、三角形の辺や角を求めることができる。 つて三角形の面積を求めることができる。 その三角関数を求めることができる。
授業のフク	更 IstQ	詳後野な を を を を を を を で を で を で で で で で で で で で で で で で	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 別である。 - トは数学Aと別にすること。 「ICT 利用 授業内容 ガイダンス 鋭角の三角比 垂角比の相互関係 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 ヘロンの公式 前期中間試験 一般角とその三角関数 弧度法 扇形の弧の長さと面積	をきちんととり、和図 遠隔授業対応	週ごとの	到達目標 角比を求め 角上を関係した かれること かのである。 を利用して かのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	は ま
授業のフク	ティブラー:	 	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 切である。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. をきちんととり、和	週 鋭 鈍 三正半余で三へき 一、弧扇三のの上定を定る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	到達目標 角比を求めれる 角上を関係した。 を利用した。 を利用した。 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、 では、 では、 では、 では、	は ま で きる と かで きる と か で きる と で で きる と か で きる と か で きる と か で きる と か る こ と が で きる と か る こ と が で きる と か る こ と が で きる と な る こ と が で きる と な る こ と が で きる と な る で きる と な る で きる と な を 使 う こ と が で きる と な を 使 う こ と が で きる と な る と か で きる と か で か で か で きる と か で と か で きる と か で さ を を きる と か で きる と か で きる と か で
授業のフク	更 IstQ	「	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノート 切である。 トトは数学Aと別にすること。 ト ICT 利用	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週が一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の上記を定る角口るののででは、のの一般の関係を表の関関を表の関関を表しています。	到達目標 角比を求めれる利用した。 関を利用の対象を使います。 はの相互利用では、 はのでは、 とのでと。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 との。 との。 との。 との。 との。 と。 との。 との。 と。 との。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	はついまでできる。 まないできる。 まないできる。 では、 三角形の辺や角および外接円のができる。 では、 三角形の辺や角および外接円のができる。 では、 三角形の辺や角を求めることができる。 では、 三角形の辺や角を求めることができる。 では、 三角形の面積を求めることができる。 では、 三角形の面積を求めることができる。 まない ことができる。 またい はい ことができる ことができる。 またい はい ことができる。 またい はい ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる。 またい ことができる ことができる ことができる ことができる ことが にんしゃく ことができる ことが できる ことができる ことがため こと
授業のプク	更 IstQ	「 接換	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには,ノート 切である。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週が一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の上記を定る角口るののででは、のの一般の関係を表の関関を表の関関を表しています。	到達目標 角比を求めれる利用した。 関を利用の対象を使います。 はの相互利用では、 はのでは、 とのでと。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 との。 との。 との。 との。 との。 と。 との。 との。 と。 との。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	は ま で きる と かで きる と か で きる と か で きる と が で きる と な る こ と が で きる と な る こ と が で きる と な る こ と が で きる と な る と か で きる と か で か で きる と か で か で か で きる と か
授業のアク	更 IstQ	「 接換で 上が 上が 過 1週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのである。 一トは数学Aと別にすること。	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週が一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の一旦の上記を定る角口るののででは、のの一般の関係を表の関関を表の関関を表しています。	到達目標 角比を求めれる利用した。 関を利用の対象を使います。 はの相互利用では、 はのでは、 とのでと。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とので。 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 とのでは、 と。 とのでは、 とのでは、 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 とので。 との。 との。 との。 との。 との。 と。 との。 との。 と。 との。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。	はついまでできる。 まないできる。 まないできる。 では、 三角形の辺や角および外接円のでできる。 では、 三角形の辺や角および外接円のでできる。 では、 三角形の辺や角を求めることができる。 では、 三角形の辺や角を求めることができる。 では、 三角形の面積を求めることができる。 まないできる。 まない はいしょう はい
授業のアク	更 IstQ	「 接換で 上が 上が 上が 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノート 切である。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をきちんととり、和図 遠隔授業対応	週 鋭 鈍 三正半余で三へき 一・弧扇三三三三のの比定を定る・勝って、強 度形角角角関関 である。 しょう はい 関 数 数 数 3 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で 1 で	到達目標 角比を求める利用の 利用の 利用の 利用でする 利力を使った。 理解した。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	はつに努め、さらに後で復習することができる。 対ることができる。 を使うことができる。 を使うことができる。 を使うことができる。 で、三角形の辺や角および外接円のができる。 で、三角形の辺や角を求めることができる。 のて三角形の面積を求めることができる。 その三角関数を求めることができる。 のできる。 を使うことができる。 にが描ける。 をグラフが描ける。
	更 IstQ	「 接換	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのである。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をきちんととり、和 ② 遠隔授業対応	週 鋭 鈍 三正半余で三へき 一、弧扇三三三 三の角角弦径弦き角口る 般 度形角角角 角の比定を定る形と、角 法の関関関 方を の数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数数	到達目標 角比を関用こり を対した。 一般を利力を使います。 一般を対した。 一定をも、 一。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	は ま できる。
授業の一 授業計	更 IstQ 2ndQ	「 接っ 接っ 上っ 上っ 上っ 上っ 上っ 1 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週 週	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 小容を十分に理解するためには、ノートのである。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 一トは数学Aと別にすること。 「ICT 利用 授業内容 ガカの三角比 三角比の相互関係 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 へロンの公式 前期中間試験 一般角とその三角関数 弧度法 扇形の弧の長さと面積 三角関数のがラフ 三角関数のグラフ 三角関数のグラフ 三角関数のグラフ 演習 前期期末試験 三角方程式 三角不等式	をきちんととり、和図 遠隔授業対応	週 鋭 鈍三正半余で三へき 一、弧扇三三三 三三のの比定を定る所ン、 角 矮の関関関 方不明明明の ある の数数数数 音楽	到達目標 角比を 別を 別を 別を 別を 別を 別を 別を 別を 別で 別で 別で 別で 別で 別で 別で のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの	は ま できる。
授業のアク	更 IstQ	「 接換	は数学の評価規準に基づき別に定める。 科目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのである。 一トは数学Aと別にすること。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をきちんととり、和 図 遠隔授業対応	週 鋭 鈍三正半余で三へき 一・弧扇三三三 三三加ご 角 角角弦径弦き角口る 般 度形角角角 角角法を定る所ン・角 法の関関関 方不定のの ある の数数数数 番等理	到達目標は角地を対した。 対域を 対域を がった では はいません かん はいません はいましん はいません はいません はいません はいません はいません はいません はいません はいましん はいません はいましん は	は ま できる。 ま できる。 ま できる。 ま できる。 を 使 うことができる。 を 使 うことができる。 を 使 うことができる。 で できる。 で できる。 で 、 三角形の辺や角および外接円のができる。 で 、 三角形の辺や角を求めることができる。 で こ 三角形の面積を求めることができる。 で ことができる。 な できる。 な で きる。 ま を 使 うことができる。 な を 使 うことができる。 な と が できる。 な と か できる。 と か できる。 と か できる と か できる。 と か できる と か できる。 と か できる と か できる と か できる と か できる。 と か できる と か さ と か できる と か さ と か できる と か できる と か さ と か できる と か できる と か さ と か できる と か さ と と か できる と か さ と さ と か できる と か できる と か できる と

		5週	<u> </u>	⊭角0	 D公式			半角の公式を使った	 た計算がで	·== きる.		
		6週				公式、和・差を積に	直す公式	三角関数を和・差の	と積の変換	をするご	ことが	できる.
		7週			関数の合成			三角関数を合成する	ることがで	·きる.		
		8週	往	後期中	- 間試験							
		9週	2	2点間	間の距離			2点間の距離を計算	算できる.			
		10逓	<u>l</u> þ	分分点	Į.			内分点の座標を計算	算できる.			
	11週 直線の方程			D方程式			直線の方程式を求め	めることが	できる.			
	±h.O	12逓						2 直線の平行・垂直	直の関係が	わかる.		
4	thQ	13逅	l P	円の方程式 円の方程式を求めることか				ることがで	きる.			
		14逓	l P	りのだ	程式の決定			円の方程式から中心	心・半径を	:求めるこ	ことが	できる.
		15週	<u> </u>	加跡				軌跡を求めることだ	ができる.			
		16週	l 後		月末試験							
モデルコス	アカリコ	キュラ	ムの言	学習	内容と到達	目標						
分類		4	分野		学習内容	学習内容の到達目標	三			到達レイ	ベル	授業週
						角を弧度法で表現る	することができる。	•		3		
						鋭角の三角比及び一	一般角の三角関数の	の値を求めることが	^{できる。}	3		前10
#7#454K-1	***	ļ	##- 224		*624	三角関数の性質及び 等式を解くことがで		、三角関数を含む方	程式・不	3		前12,前 13,前14
基礎的能力	数学	3	数学		数学	加法定理を利用でき	きる。			3		後3,後4,後 5,後6
						与えられた二点から	5距離や内分点を	求めることができる) 。	3		後9
						直線及び円の方程式	式を求めることが ⁻	できる。		3		後10
評価割合												
	試	験		発	表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他		合計	
総合評価割合	10	00		0		0	0	0	0		100	
基礎的能力	10	00		0		0	0	0	0		100	
専門的能力	評門的能力 0 0				0	0	0	0		0		
分野横断的能	七力 0			0		0	0	0	0		0	

釧段	8工業高等	+ 1	₹ 開講年度 令和06年度(受業科目 数	汝学A
科目基础		7 (((((((((((((((((((1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	202112)	<u> </u>	<i>X</i> 3 <i>Y</i> 1
科目番号		0016		科目区分	一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 4	1
開設学科		情報工	学分野	対象学年	1	
開設期		通年	,並 甘琳粉类 小乳脂 (十二十四字)	週時間数	4 5#= 7#=T#5 (-	40+00争) 苯吡粉++, 蛇痘 克
教科書/教	材	教科書	:新 基礎数学 改訂版(大日本図書), 学1問題集(森北出版)	问起集:新 基啶数子问题	・ 「以記が入し	人口本凶音) , 開助教材:
担当教員		池田 盛	一,村上 公一,小谷 泰介,上別府 陽			
評価項目 評価項目 評価項目	1:整式の 2:方程式 3:関数の 4:指数・	および不等 グラフをか	できる 式を解くことができる くことができる をすることができる			
ルーブ!	ノック					I
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安 整式の四則計算および因数分解が
評価項目	1		因数定理などを用いて複雑な式の 因数分解ができる	整式の四則計算および できる	四致分辨儿	登式の四則計算のよび凶致分解が できない
評価項目			高次方程式および分数方程式・無 理方程式を解くことができる	2次方程式および連立 くことができ, 1次・2次不等式を解 きる		2次方程式および1次不等式を解 くことができない
評価項目:	3		関数の逆関数を求めることができ る	2次関数および分数関 のグラフをかくことが		2次関数のグラフをかくことができ ない
評価項目			指数・対数の方程式・不等式を解 くことができる	指数・対数の性質を利 することができる	用して計算	指数・対数の値を求めることがで きない
学科ので	到達目標」	面日との!		12.900011.00		C'ΦV
	可建立(赤) 育到達度目		√N INI			
教育方法		13.				
		2の科教科書	通じて第2学年からの微分・積分の学習 目は釧路工業高等専門学校数理・データ ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容 ドニされた問い対練習問題を必ず白学品	⁷ サイエンス・AI教育フロ 『をきちんとノートにとる	こと	
	め方・方法	この 科業 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合、授業態度などを10%までの単は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年)内容を十分に理解するためには、ノートのである。	アサイエンス・AI教育フE デをきちんとノートにとる 1習し,次の授業のときに で合格とする 5囲で加減する	こと 解答を示せる	5ように準備しておくことを求める
注意点		この 科業 では すい でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でいま でい	目は釧路工業局等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合,授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年)内容を十分に理解するためには,ノートのであるは1年数学Bと別にすること	アサイエンス・AI教育フE デをきちんとノートにとる 1習し,次の授業のときに で合格とする 5囲で加減する	こと 解答を示せる	5ように準備しておくことを求める
注意点	属性・履何	この科書で、て以く験は関連業が一段上の区が	目は釧路工業局等専門学校数埋・テータ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学自の試験の合計によって評価し,6割以上の場合,授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施するは、数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには,ノート切であるは1年数学Bと別にすること	アサイエンス・AI教育フE 家をきちんとノートにとる 習習し,次の授業のときに で合格とする 通田で加減する う	こと 解答を示せる	らように準備しておくことを求める こうに努め, さらに後で復習するこ
注意点		この科書で、て以く験は関連業が一段上の区が	目は釧路工業局等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合,授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年)内容を十分に理解するためには,ノートのであるは1年数学Bと別にすること	アサイエンス・AI教育フE デをきちんとノートにとる 1習し,次の授業のときに で合格とする 5囲で加減する	こと 解答を示せる	らように準備しておくことを求める こうに努め, さらに後で復習するこ
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	この科書で、て以く験は関連業が一段上の区が	目は釧路工業局等専門学校数埋・テータ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学自の試験の合計によって評価し,6割以上の場合,授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施するは、数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには,ノート切であるは1年数学Bと別にすること	アサイエンス・AI教育フE 家をきちんとノートにとる 習習し,次の授業のときに で合格とする 通田で加減する う	こと 解答を示せる	らように準備しておくことを求める こうに努め, さらに後で復習するこ
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	この科書で、て以く験は関連業が一段上の区が	目は釧路工業局等専門学校数埋・テータ・ノート等を忘れず持参し,授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学自の試験の合計によって評価し,6割以上の場合,授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施するは、数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには,ノート切であるは1年数学Bと別にすること	アサイエンス・AI教育フロ デをきちんとノートにとる I習し、次の授業のときに で合格とする I囲で加減する S をきちんととり、積極的 図 遠隔授業対応	こと 解答を示せる	らように準備しておくことを求める こうに努め, さらに後で復習するこ
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	この科書で、て以く験 科別の大ト 医上の とう とう とう とう かんしょう かんしょう はいま はい	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合、授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのであるは1年数学Bと別にすることが □ ICT 利用 授業内容 係数・次数	アサイエンス・AI教育フロ デをきちんとノートにとる I習し、次の授業のときに で合格とする I囲で加減する 一をきちんととり、積極的 図 遠隔授業対応 週ごの 係数さ	こと 解答を示せる 加に質問するよ との到達目標 および次数を変	おように準備しておくことを求める まうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業 求めることができる
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	での科書で、では、 を経験である。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合、授業態度などを10%までの範は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する。 ヨ:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのであるは1年数学Bと別にすることが □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ 授業内容 「係数・次数を主の加法・減法	アサイエンス・AI教育フロドをきちんとノートにとる は習し、次の授業のときに で合格とする。 田で加減する をきちんととり、積極的 図 遠隔授業対応 関ごの 係数な 整式の 整式の	こと 解答を示せる 別に質問するよ との到達目標 および次数を3 か加法と を展開できる	おように準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 」 実務経験のある教員による授業 なめることができる の計算ができる
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	で 対策 で で で で の 科業 で で の に に に に に に に に に に に に に	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合、授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのであるは1年数学Bと別にすることが □ ICT 利用 授業内容 係数・次数	アサイエンス・AI教育フロ デをきちんとノートにとる il習し,次の授業のときに で合格とする。 囲で加減する をきちんととり,積極的 図 遠隔授業対応 整式、 整式、 たする。	こと 解答を示せる が関連 かの かの かいで ができる。 を展開で数で。 を表現の を表現の を表現の を表現の を表現の を表現の を表する。	おように準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業 求めることができる の計算ができる くくることができる こ2次式の因数分解ができる
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー: 画	この 科学 で で で で で で で で で	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学自の試験の合計によって評価し、6割以上の場合、授業態度などを10%までの軍は数学の評価基準に基づき別に定めるは、前期末、後期末、学年末に実施する目:数学A,B,C(2年)内容を十分に理解するためには、ノート切であるは1年数学Bと別にすることがプローであるは1年数学Bと別にすることがプローである。 は1年数学Bと別にすることがプローである。 は1年数学Bと別にすることが、プローである。 は1年数学Bと別にすることが、プローである。 は1年数学Bと別にすることが、プローである。 は1年数学Bと別にすることが、プローである。 は1年数学Bと別にすることが、プローである。 は1年本であることが、プローである。 は1年本である。	アサイエンス・AI教育フロ	こと 所答を示せる に 所答を示せる に 所答を示せる に 所 の の の の の の の の の の の の の	おように準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業 求めることができる の計算ができる くくることができる こ2次式の因数分解ができる
注意点 授 業の 同 □ アクラ	属性・履(ディブラー <u>-</u>	この 科学 で で で で で で で で で	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合。 授業態度などを10%までの範含、授業態度などを10%までの範さは、対策を表して、対策を表し、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表して、対策を表し、、対策を表して、まりを表して、まりを表して、まりを表して、まりを表して、まりを表しないる。まりを表し、まりを表し、まりを表しないる。まりを表しないる、対策を表し、なりを、まりまりを表しまりまりを表し、まりを表し、まし、まりを	アサイエンス・AI教育フロ	こと 解答を示せる に 所答を示せる に 所 に 所 に 所 に 所 に に に に に に に に に に に に に	おように準備しておくことを求める ここに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業 「対めることができる」 の計算ができる とくることができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる この大式の因数分解ができる この大式の因数分解ができる
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計庫	属性・履(ディブラー: 画	C	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合。 授業態度などを10%までの輝まなが学の評価基準に基づき別に定めるまな、前期末、後期末、学年末に実施する。 書:数学A,B,C (2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのである。 は1年数学Bと別にすることが □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ 授業内容 「係数・次数・整式の展開 因数分解 たすさの解析 たすさの原法 最大公約数・最小公倍数 剰余の定理 因数定理	アサイエンス・AI教育フロ	に に に に に に に に に に に に に に	まうに準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計庫	属性・履(ディブラー: 画	ご教授 す6詳再 関授とノの 科業 べ割し試 連業が一 区	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的 の	アサイエンス・AI教育フロス・AI教育フロス・AI教育フロス・AI教育フロスを含まった。	に に に に に に に に に に に に に に	おように準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計庫	属性・履(ディブラー: 画	C	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合。 行いたいでは、 クロの場合、授業態度などでも10%までの範疇を表して、 クロの場合、授業態度などでも10%までの範疇を表して、 クロの場合、授業をものでは、 クロートでは、 のロートでは、 クロートでは、 クロートでは、 のロートでは、 のunderでは、 のunde	アサイエンス・AI教育プロス・AI教育プロス・AI教育プロス・AI教育プロス・大きされたととり、できる。	に に に に に に に に に に に に に に	まうに準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業
注意点	属性・履(ディブラー: 画	Table Ta	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノート等を忘れず持参し、授業の内容指示された問いや練習問題を必ず自学的の場合。 伊護 を10%までの範疇の人のでは、アードでは、大学のは、大学のでは、アードである。 大学を十分に理解するためには、アードのである。 1 大学のである。 1 大学のでは、アードのである。 1 大学のでは、アードのである。 1 大学のでは、アードのである。 1 大学のでは、アードのである。 1 大学のでは、アードので	アサイエンス・AI教育プロス・AI教育プロス・AI教育プロス・AI教育プロス・AI教育のときに対し、次の授業ので合格とする。 で合格とする。 一で一で加減する。 一をきちんととり、積極的である。 「で合格とする。」 「でった。」 「でった。」 「できた。 「できたた。 「できた。 「できた。 「できたた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できたた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できたた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。 「できた。	と	おように準備しておくことを求める ここに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業 「大めることができる の計算ができる とくることができる ことができる こことができる こことができる こことができる こことができる こことができる こことができる こことができる こことができる ここさる ここさる ここさる
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作 ディブラー <u>-</u> 画 1stQ	C	目は釧路工業高等専門学校数理・テータ・ノートで表示の内容によって評価し、6割以上での場合。投業態度などで10%までの軍は、分別である。との場合、投業を主ができます。 数学A,B,C (2年) 内容を十分に理解するためには、ノートのである。 1 である。 1 である。 2 である。 2 である。 2 である。 3 である。 3 である。 4 である。 4 である。 5 である。 5 である。 6 である。 6 である。 7 である。 7 である。 7 である。 7 である。 8 を十分に理解するためには、ノートのである。 7 である。 8 を十分に理解すること 8 である。 7 である。 8 を十分に理解すること 9 である。 8 を十分に理解すること 9 である。 8 を十分に理解すること 9 である。 8 を十分に理解すること 9 である。 8 をもからには、ノートのである。 9 である。 8 を十分に理解すること 9 である。 9 であ	アサイエンス・AI教育プレス・AI教育プレス・AI教育プレス・AI教育プレス・AI教育プレスを含む、Ail教にときにできた。次のでは、Ail教にときにできた。	と	おように準備しておくことを求める こうに努め、さらに後で復習するこ 実務経験のある教員による授業
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履(ディブラー: 画	C	目は釧路等専門学校数理・テータ・ナータ・ナータ・ナータ・ナータ・ドータ・ はいか線習問題を必ず自学的の内容によって評価し、6割以上の場合、授業態度などを10%までの軍はながである。 大切容をものでは、カートのであるでは、カートのである。 は、カートのである。 は、カートのでは、	アサイエンス・AI教育によきに できちんととり、 で合格とする。 で合格とする。 で合格とする。 で合格とり、 積極的である。 で合格ともり、 積極的である。 のをきちんととり、 積極的である。 のをきちんととり、 積極的である。 のをきない。 をきない。 をきない。 をきない。 をきない。 をきない。 をきない。 をきない。 を整整である。 をきない。 を整整である。 を変数でな。 を変数で、 を変数で、 を変を、 を変を、 を変	と	はまずに準備しておくことを求める にうに努め、さらに後で復習するこ に努め、さらに後で復習するこ に努め、さらに後で復習するこ に対できる の計算ができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ことができる ここの大式の因数分解ができる ここの大式の因数分解ができる ここの大式の因数分解ができる ここの大式の因数分解ができる ここの大式の因数分解ができる ここの大式の因数分解ができる ここさる ここさる ここさる ここさる ここさる ここうに対している。ことができる ここうに対している。ことができる ここうになる ここうになることができる ここうになることを求めることができる ここうになることを求めることができる ここうになることを求めることができる ここうになることを求めることを求めること ここうになることを求めることができる ここうになることができる ここうになることができる ここうになることを求めることができる ここうになることを求める。ことを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求めることを求める。ことを求めることを求めることを求める。ことを求めることを求める。ことを求めることを求める。ことを求めることを求める。ことを求める。ことを求めることを求める。ことを求めることを求める。ことを求めることを求める。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなるる。ことをなるる。ことをなる。ことをなるる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。ことをなる。こと

		13:	週	か数方 無理方				分数方程式および	無理方程式	を解くこ	とが	できる
		14	週 性	亘等式	Č			恒等式になるように	_ に定数を定	めること	がで	
		15	週	等式σ L次不)証明 等式			等式の証明をする。 1次不等式を解くこ	ことができ	·る る		
		16			:試験							
		1週			次不等式 の証明			連立1次不等式を解 不等式の証明をする				
		2退	, t	目加・	相乗平均の関 こその定義域・			相加・相乗平均の関係を用いて,不等式を証明することができる 関数の定義域・値域を求めることができる				
		3週	1 2	2次関	数のグラフ			2次関数を標準形に				・ バできる
		4週] 2	2次関	数の最大・最	·J\		2次関数の最大値・	最小値を対	求めるこ	とがて	<u>:</u> きる
	3rdQ	5週	1 2	2次関	数と2次方程式	犬・2次不等式		2次関数と2次方程 2次関数のグラフを る	式の関係か 注用いて2次	がわかる マ不等式を	全解く	ことができ
		6週	<u> </u>	ブラフ	かい ・ 奇関数 アプラス アプラス アプラス アプラス アプラス アプラス アプラス アプラス			関数が偶関数また(グラフの平行移動	は奇関数で	あること		
		7週		分数以 無理以	数数数			分数関数および無理	理関数のグ	ラフをか	くこ	とができる
後期	L	8週			間試験							
	9週 グラフの対称移動 グラフの対称移動を 逆関数 逆関数 逆関数を求めること					を理解でき とができる	る					
		10:	TE S	累乗相	 }			累乗根を求めるこの 指数法則を用いた	とができる	ı		
	10週指数の拡張指数法則を用いた計算ができる。11週指数関数 指数関数のグラフをかくできる。指数方程式・不等式を解く					をかくこと	ができる	る				
	4thQ	12:	·	付数の	D定義・性質 変換公式	•		対数の意味を理解し底の変換公式を用い				できる
		13	週 対	付数関	数							
		14	週 対	付数方	7程式・不等式	ı		対数方程式・不等式を解くことができる				
		15		常用対				常用対数の値を求め	<u> </u>	できる		
	1	16			試験			L				
	コアカ	リキュ			内容と到達					I		
分類			分野			学習内容の到達目権 整式の加減乗除の記			 単な因数分	到達レ ^ヘ 3		授業週 前1,前2,前
					-	解ができる。 分数式の加減乗除の	 D計算ができる。			3	_	3,前5 前5,前6
						実数の絶対値につい		ができる。		3		 前7
						分母の有理化等のゴ	F方根の計算がで	きる。		3		前9
					:	複素数の相等を理解	解し、加減乗除及で	び絶対値の計算がで	<u>:</u> きる。	3		前9,前10
								を解くことができる		3		前10
								を解くことができる	٥.	3		前12
					H	連立方程式を解くる				3		<u>前12</u>
					<u>.</u>	無理方程式及び分数				3		<u>前13</u> 前15,後
基礎的能力	力数学	<u>.</u>	数学		数学	一次不等式及び二次	次不等式を解くこ	とができる。 		3		1,後5
								、最大値や最小値を	 z求めるこ	3		前14 後3,後4
						とができる。 分数関数や無理関数 関数を含む不等式に		フを理解し、分数関	 関数や無理	3		後7
					 		-	の性質を説明できる		3		 後9
					- t	累乗根や指数法則を				3		後10
							ゾグラフを理解し、	指数関数を含む方	 j程式・不	3		次 後11
						対数の性質を理解し		 できる。		3		 後12
							ブグラフを理解し、	対数関数を含む方		3		~ 後13,後14
評価割る	 		•		I							
61 IMI 11 11					<u> </u>	+D == ± (#	態度	ポートフォリオ	その他	T	△= ⊥	
		試験		発表	₹	相互評価	心及		-C071B		合計	
総合評価		試験 100 100		発達 0 0	<u>₹</u>	0 0 0	0 0	0 0	0 0		100 100	

細路	 江業高等	 専門学校	開講年度	令和06年度 (Z	2024年度)	授	 業科目	化学
科目基础			1 1/38/3 / /	11-12-12	/ <u>-</u>	, , , , ,	.~. 1	ı · - ·
科目番号	CIIJIK	0017			科目区分			· 修
授業形態		講義			単位の種別と単位		療修単位:	
開設学科		情報工学分	分野		対象学年		1	
開設期		通年			週時間数		2	
教科書/教	材	教科書:新礎(東京書 新化学基础	所編化学基礎(東京 籍) 参考書:Pro 楚(数研出版)	書籍)、理数探究基 fessional Enginee	礎(数研出版) 副報 r Library化学(実教	数材(自含 效出版)	学自習用問 例題で学	題集): ニューステップアップ化学基 ぶ基礎化学(森北出版) チャート式
担当教員		佐藤 潤						
到達目標	票							
日常生活や物質とその物質とその	や社会との関 の変化の中に の変化につい	関連を図りなが 1問題を見いが 1て、基本的が	がら物質とその変化 だし、事象を科学的 な概念や原理・法則	とについて関心をも りに考察している。 則を理解し、知識を	ち、科学的な見方 :身に付けている。	や考えた	を身に付	けている。
ルーブリ	ノック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目	安	未到達レベルの目安
評価項目:	Ĺ		がら物質とその: を持ち、意欲的	との関連を図りな変化について関心 変化について関心 に探究しようとす 学的な見方や考え いる。	日常生活や社会。 がら物質とその3 を持ち、科学的か 身に付けている。	変化につな見方や	を図りないて関心 考え方を	物質とその変化について、科学的 な見方や考え方ができない。
評価項目2			だし、事象を科:	の中に問題を見い 学的に考察し、導 的確に表現してい	物質とその変化の だし、事象を科学			物質とその変化に関する事象を科 学的に考察できない。
評価項目3			物質とその変化な概念や原理・	について、基本的 法則を理解し、知 とともに、それら 活と関連付けて考	物質とその変化はな概念や原理・注意を身に付けては	去則を理	、基本的 解し、知	物質とその変化に関する基本的な 概念や原理・法則を理解できない。
	別達目標項 育到達度目標		1 -					
教育方法		.,						
概要		この科目(i である。	は釧路工業高等専門		サイエンス・AI教	育プログ	ブラム(リ	テラシーレベル)構成科目のひとつ た、学習内容に対する理解を深める
授業の進む	か方・方法	た (大) た (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大)	実験を適度には、 を適度には、 に、 を適度には、 に、 のででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でのでのである。 でのでのでのである。 でのである。 でのでのでのである。 でのでのでのでのでのでのでのでのである。 でのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの	はお、理数探究基礎 ノート、ファイル 内容の概略をつかん 防囲を演習プリント 学式、元素記号、周 ようにして下さい。 り、その他(小テス)が し、その他(小テス)が し、その他(小テス)が し、その他(かテス)が	(数研出版)は主に ・バインダー(授業 でから授業に臨ん や問題集を用いて 期表を理解してい ト、レポートなど3 提出されていない	実験・どうで確いと、 (30%)に (30%	ポート作。 パリントの! い。 5習慣を付 授業の理 平価し、60	を理のため)、関数電卓け、内容の理解、知識の定着を図っかが深まりませんので、必要な知識の点以上を合格とする。ただし、実験の評価項目に関わらず不合格とする。なお、再試験で合格した場合は60点
注意点						•		(1年)、化学と人間生活(専攻科) ことによって、日常生活での様々な 現象を結びつけて、理解を深めて下
授業の原	<u>ー</u> 属性・履修	上の区分						
	ーィブラーニ		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応	,		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画	<u> </u>							
		週	受業内容			週ごとの	の到達目標	<u> </u>
		1週		 化学と人間生活の関]わり			主支える物質の性質、用途について説
						明できる		ソンプ (路打+)(人)肉(汁・た)をは口で・ナフ
		2週	2 物質の性質と分	刀'两性				いて、適切な分離法を選択できる。 「味・見な例が説明できる。
		3週	3 物質の成分、物質の三態、				un物の忌 三態とその	原味と具体例が説明できる。)状態変化を説明できる。
		4週	4 原子の構造					· 番号、質量数を説明できる。
前期	1stQ		5 実験1 混合物	物の分離		混合物を	を適切な分	か離手法を用いて、分離することがで
		6週	6 電子配置・元素の周期表					こついて電子殻を用いて表すことがで 引表と周期律から考えることができる
		7週					その構造,	性質に関する問題を解くことができ
	1					る。		

		8週	前期中	 中間試験:実施	 !する			
		9週		イオン		イオンについて説明ができ、	化学式で表す	ことができ
						る。	毎について計	
		10週		イオン結合		イオン結合とイオン結晶の性 金属結合や金属の性質につい		
		11週	1 0	金属結合と	金属結晶、分子と共有結合① 	共有結合がどのようなものか	説明できる。	
	2ndQ	12週	1 1	分子と共有	結合②	構造式や電子式により分子を 分子からなる物質の性質につ	表すことかで いて説明でき	ごさる。 :る。
•	znaQ	13週	1 2	実験2 同位	立体の性質	同位体の性質について理解す 測定と測定値の取り扱いにつ る。	ることができ いて理解する	る。
		14週	1 3	物質の構成	位子と物質の分類、	物質を分類し、それぞれの性	質について訪	朗できる。
		15週	1 4	まとめ・演	当	イオンや分子, 結合に関する	問題を解くこ	ことができる
		16週	前期其	明末試験:実施				
		1週	1 5	原子量、分		原子量を理解し、分子量、式 物質量について説明できる。	量の意味を説	明できる。
		2週	1 6	物質量②	·	物質量に関する計算ができる	_	
		3週		溶液の濃度		質量パーセント濃度、モル濃		 [*] きる。
		4週		化学反応式		化学反応を反応物、生成物、		
	3rdQ	TE	10			ことができる。	☆☆☆+ >®	1万十四470十
ľ	JiuQ	5週	1 9	実験 3 化	学反応の量的関係	化学反応式から化学反応の化 ることができる。	子重論的な関	1徐を埋解 9
		6週	2 0	化学反応式	の量的関係	化学反応式から化学反応の化 て、計算ができる。	学量論的な関	係を理解し
		7週	2 1	まとめ・演	<u></u> 필	物質量。濃度や化学反応式に	関する問題を	解くことが
	7週 21 まこめ・ 8週 後期中間試験:			b問試験·実施		できる。		
後期		9週			。		0	
2793		9週	22	一一	接て温基の強さ	電離度から酸と塩基の強弱に		
		10週	2 3	pH,中和反	応と塩,	pHが説明でき、水素イオン濃中和反応について説明できる中和反応によって生じる塩の。	5.	
		11週	2 4	中和反応と	<u></u> 塩,中和滴定	中和の量的関係に関する計算 中和滴定に関する計算ができ		
ľ	4thQ	12週	2 5	実験4 中	和滴定	中和滴定の操作が行える。		
		13週	2 6	酸化と還元	D .	電子の授受の観点から酸化還	元反応を説明	できる。
		14週	2 7	酸化と還元	2	酸化数の変化を理解し、酸化酸化剤・還元剤の働きを説明	還元反応を訪 できる。	朗できる。
		15週	2.8	まとめ・演		酸・塩基、pH, 中和反応, 酸		 こ関する問題
		16週			·	を解くことができる。		
 」 モデルコ	アカリキ			カマと到道				
<u>こファレコ</u> 分類	<i>) </i>	分野	<i>/</i> 丁日	学習内容	=ロ1家 学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
277		7222		3 11.31	化学と現代の社会課題との関連性に	 ついて説明できる。	3	前1
					物質が原子からできていることにつ	いて説明できる。	3	前4
					単体と化合物について説明できる。		3	前3
					同素体について説明できる。		3	前3
					純物質と混合物の区別について説明	できる。	3	前2,前5
					混合物の分離法について理解し、適	切な分離法を選択できる。	3	前2,前5
					物質を構成する分子・原子が常に熱 明できる。	運動していることについて説	3	前3
					水の状態変化について説明できる。		3	前3
					物質の三態とその状態変化について	 説明できる。	3	前3
					原子の構造(原子核・電子)や原子		3	前4
		<u> </u>		41.34	きる。 同位体・放射性同位体について説明	 できる。	3	前4,前13
基礎的能力	自然科学	生 化学		化学	原子の電子配置について電子殻を用		3	前6
					個電子の働きについて説明できる。	v・C目Cなりしにパ(CO)。	3	前6
					イオン化エネルギーと電子親和力に	 ついて説明できる。	3	前9
					代表的なイオンを化学式で表すこと		3	前9
					原子番号と価電子の数との関係につ		3	前4
					元素の性質について価電子と周期律		3	前6
	1				ル来の任真に JV・C 個电」 C 内物件		-	#iO

イオンの化学式とイオンの名称について説明できる。

構造式や電子式により分子を書き表すことができる。

イオン結合について説明できる。

共有結合について説明できる。

イオン結晶の性質について説明できる。

極性と水素結合について説明できる。

3

3

3

3

3

3

前9

前10

前12

前12

前10,前14

前11,前14

				自由電子と金属結合	合について説明でき	きる。		3	前11,前14
				金属の性質について	て説明できる。			3	前11,前14
				原子の相対質量と原	原子量について説明	月できる。		3	後1,後7
				物質量(mol)を用	別い物質の量を表す	ことができる。		3	後1,後2,後 7
				分子量・式量につい	ハて説明できる。			3	後1,後2,後 7
				気体の体積と物質量	量の関係について説	说明できる。		3	後1,後2,後 7
				化学反応式について ことができる。	て反応物、生成物、	係数を理解し、組	み立てる	3	後4,後5,後 7
				化学反応式を用いて	て化学量論的な計算	算ができる。		3	後4,後5,後 7
				電離について説明で				3	前9
				質量パーセント濃度 算ができる。	度について説明でき	き、質量パーセント	濃度の計	3	後1,後3,後 7
				モル濃度について記	说明でき、モル濃度	という		3	後1,後3,後 7
				酸・塩基の定義(7 の定義)について記		ブレンステッド・	ローリー	3	後9,後15
				酸・塩基の化学式と	と酸・塩基の価数に	こついて説明できる) 。	3	後9,後15
				電離度と酸・塩基の	の強弱について説明	月できる。		3	後9,後15
				pHについて説明で	き、pHと水素イオ	ン濃度の計算がで	きる。	3	後6,後 10,後15
				中和反応を化学反応	芯式で表すことがて	ごきる。		3	後10,後 11,後12,後 15
				中和滴定の計算がで	できる。			3	後10,後 11,後12,後 15
				酸化還元反応につい	ハて説明できる。			3	後13,後 14,後15
				実験器具(電子天利 択し正しく使うこと		ご)を目的と精度に	応じて選	3	前5,前 13,後5,後 12
				試薬(粉体及び液体	本)の取扱いができ	きる。		3	前5,前 13,後5,後 12
				整理整頓により実験ができる。(物理等	検環境を適切に保ち 実験と共通)	5、手順に従って安	全に実験	3	前13,後 5,後12
				事故への対処の方法 説明できる。	法(薬品の付着、引	川火、火傷、切り傷	など)を	3	前13,後 5,後12
		化学実験	化学実験	実験条件やデータな	などを正確に記録て	できる。(物理実験	(と共通)	3	前13,後 5,後12
				実験結果を表やグラ	ラフなどに見やすく	〈整理できる。		3	前5,前 13,後5,後 12
				適切な有効数字及で (物理実験と共通)		理量を表すことがで	きる。	3	前5,前 13,後5,後 12
				観察・実験結果を原 。 (物理実験と共道		内容と関連付けて訪	明できる	3	前5,前 13,後5,後 12
				目的に応じて適切な 定器等の使用方法を る。	な実験手法を選択し を理解した上で、安	ン、実験手順や実験 安全に実験を行うこ	装置・測 ことができ	2	前5,前 13,後5,後 12
		工学宝龄坛	工学実験技	実験テーマの目的なら近似曲線を求める果的に表現すること	るなど、グラフや図	F法により取得した 図、表を用いて分か	データか り易く効	2	前5,前 13,後5,後 12
	工学基礎	工学実験技 術	() 上子关級权 ()	必要に応じて適切ができ、定量的・論理 きる。	よ文献や資料を収集			2	前5,前 13,後5,後 11,後12
				<u>じる。</u> 個人あるいはチーム 験・実習を実施する		緊、自らの役割を認	識して実	2	前5,前 13,後5,後
評価割合		1	1					<u> </u>	11,後12
	試験	<u></u>	 発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	í	合計
総合評価割合	ì 70	C)	0	0	30	0		100
基礎的能力	70	C)	0	0	30	0		100
専門的能力	0	0)	0	0	0	0	()
分野横断的能	力 0	0)	0	0	0	0	()

釧	烙工業高等	等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科	目 地球と生命	
科目基	礎情報							
11日 科目番号		0018			科目区分	一般	/ 必修	
授業形態		講義			単位の種別と単位		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
開設学科		情報工	 学分野		対象学年	1		
加設」、 開設期		通年	3 /3 23		週時間数		2 後期:2	
教科書/		教科書			: チャート式シリー	-ズ新生物(サイ
担当教員	Į	小久保		r , ひク 皮配 の	(例の)・8子 (鉄)川田ル	x) , —⊥ .	スプーン机心于囚役(沃西自治)	
到達目	標							
自然と人 自然と人	、間生活との	関わり及び	科学技術が果たして 科学技術が果たして 科学技術が果たして	きた役割について問	題を見いだし、事象	象を科学的に	方を身に付けている。 考察することができる。	
<u>ルーフ</u>	リック		理想的な到達レ	.ベルの日本	標準的な到達レベ		 未到達レベルの目安	
					保学的な到達レハ	ルの日女	木到達レイルの日女	
評価項目	1		学技術が果たし て興味・関心を 究しようとする	をの関わり及び科してきた役割についてきた役割についてもち、意欲的に探らとともに、科学的である。	自然と人間生活と 学技術が果たして て興味・関心をも え方を身に付けて	:きた役割に1 :ち、科学的/	が科 自然と人間生活との関わり及 つい 学技術が果たしてきた役割に る科学的な考え方が身に付い ない。	こ関す
評価項目	12		学技術が果たして問題を見いだ	るとの関わり及び科 ってきた役割につい し、事象を科学的 出した考えを的確 ができる。	自然と人間生活と 学技術が果たして て問題を見いだし に考察することが	きた役割に、 ・、事象を科	び科 自然と人間生活との関わり及 つい 学技術が果たしてきた役割に 学的 て問題を見いだすことができ 。	こつい
評価項目	13		自然と人間生活学技術が果たし	を との関わり及び科 してきた役割につい 高度な知識を身に	自然と人間生活と 学技術が果たして て理解し、知識を	きた役割につ	つい 日然と人間土角との関わりか	ひび科こつい
学科の	到達目標	項目との	·					
	有到達度目		- 201					
教育方								
扒月刀	/ // 寸	生物レ	フゎた取り光ノ地式	····	o. = 10 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11 - 11	・プロタフナフ		
概要		教科書	・授業プリントを用い	環境を中心に,自然 いて考え,自然に対 いて講義形式で行う 図るため、網察宝器	٥		ට.	
	重め方・方法	教科書 学習内 復習を 合 合 合 は 不	・授業プリントを用い容の深化や体系化を	ハて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験	。 , 制作物の作成等を 底すること。	で適宜行う。	。 う。 。課題,制作物は1つでも未提出がる	ある場
授業の追	重め方・方法	教科書 学習をで 復否では 合合は 経評 再試験	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 中心に行い、講義内な 定:課題、小テスト、 今格とする。	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上	で適宜行う。		ある場
授業の追 注意点		教習習否は終試 関連 関連 関連 利間 関連 利間 関連 関連 利間 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連 関連	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 中心に行い,講義内に 定:課題,小テスト, 合格とする。 価:合きの点以上を合格。 目:物理(1年,2年	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上	で適宜行う。		ある場
授業の追 注意点 授業 の	属性・履	教科書 学復習をで で 会合に 最前 関連科 修上の区	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 中心に行い,講義内に 定:課題,小テスト, 合格とする判定と同じ す60点以上を合格。 目:物理(1年,2年 分	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が 6 0 点以」 F)	であること	。課題,制作物は1つでも未提出がる	
授業の追注意点 注意点 授業の		教科書 学復習をで で 会合に 最前 関連科 修上の区	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 中心に行い,講義内に 定:課題,小テスト, 合格とする。 価:合きの点以上を合格。 目:物理(1年,2年	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上	であること		
授業の進 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科書 学復習をで で 会合に 最前 関連科 修上の区	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 中心に行い,講義内に 定:課題,小テスト, 合格とする判定と同じ す60点以上を合格。 目:物理(1年,2年 分	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が 6 0 点以」 F)	であること	。課題,制作物は1つでも未提出がる	
授業の追注意点 授業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習名は 日本	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を 中心に行い,講義内 定:課題,小テスト, 合格とする。 面:合否可以上を合格。 目:物理(1年,2年 分	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 手)	であること	。課題,制作物は1つでも未提出がる	
授業の追注意点 授業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習者 学習 学問 を	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を 中心に行い,講義内 定:課題,小テスト, 合格 合為別定と同じ ま60点以上を合格。 目:物理(1年,2年 分)	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 , 制作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以」 手)	で適宜行う。 であること 週ごとの到達	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ	る授美
授業の進 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習名は 日本	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を 中心に行い,講義内 定:課題,小テスト, 合格とする。 面:合否可以上を合格。 目:物理(1年,2年 分	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 , 制作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以」 手)	で適宜行う。 であること 週ごとの到達	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 目標 と地球型惑星,木星型惑星,天王	る授業
^{注意点} 授業の	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習者 学習 学問 を	・授業プリントを用いるの深化や体系化を行い、所述を表内に行い、所述を表内に行い、所述を表面に合うを表しまする。のでは、1年、2年の分とでは、1年、2年の分とでは、1年、2年の分とでは、1年のでは、1年	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 , 制作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以」 手)	E適宜行う。 こであること 過ごとの到達 太陽系の誕生	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 目標 と地球型惑星,木星型惑星,天王	る授美
授業の追 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習習不は終験科別を判不評別をは不評別の一人の区グ	・授業プリントを用いるの深化や体系化を行い、所述を表内に行い、所述を表内に行い、所述を表面に合うを表しまする。のでは、1年、2年の分とでは、1年、2年の分とでは、1年、2年の分とでは、1年のでは、1年	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 , 制作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上	で適宜行う。 であること 過ごとの到達 太陽系の誕生 星について訪 太陽系に属す	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 目標 と地球型惑星,木星型惑星,天王	この授業 星型惑
授業の追 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習習行の区グ 関 1 週 2 週 3 週	・授業プリントを用い 容の深化や体系化を「 容の深化や体系構義内に たまとして、 では、かった、 を合った。と同じは もの点以上を合格。 目:物理(1年,2年)か 図 ICT 利用 授業内容 太陽系の中の地球 ①太陽系の 近は、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 , 制作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上	E適宜行う。 こであること 過ごとの到達 太陽系の誕生 星について訪 太陽系に属す	。課題,制作物は1つでも未提出がる □ 実務経験のある教員によ 目標 こと地球型惑星,木星型惑星,天王星明できる。	こる授業
授業の進 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー <u>:</u>	教科習名のを判で、最高には、一般を表現を対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、	・授業プリントを用いる では できます できます できます できます できます できます できます できます	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 容の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。), 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 こであること 過ごとの到達 大曜にの証で素のいに属地 大陽でと、に地球る。 地球る。	。課題,制作物は1つでも未提出がる □ 実務経験のある教員によ □ 実務経験のある教員によ □ 実務経験のある教員によ □ 実務経験のある教員によ □ 表記の特徴について説明できる。 □ る惑星の特徴について説明できる。 □ な惑星の特徴について説明できる。 □ ないできる。 □ ないできる。	こる授美 単型 月で 説・明 で説・明海
授業の進 注意点 授 業の 図 アク	属性・履ティブラー:	教科習習不可能 を	・授業プリントを用いる では できます できます できます できます できます できます できます できます	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 、制作物, 定期試験 とする。), 化学(1年, 24	。 ,制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 こであること 過ごとの到達 大曜にの証で素のいに属地 大陽でと、に地球る。 地球る。	。課題,制作物は1つでも未提出がる □ 実務経験のある教員によ 目標 こと地球型惑星,木星型惑星,天王星明できる。	この おり こう
授業の進注意点 授業アク・ 授業計	属性・履ティブラー:	教科習習を判示に対して、	・授業プリントを用いる では できます できます できます できます できます できます できます できます	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 制作物, 定期試験 とする。), 化学(1年, 24	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 こであること 過ごとの到達 大型にのいて属地 関本と、ののる断層ののいる断層ののいるがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするができます。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするができまするができますできます。 でするができまするができますできます。 でするができまするができます。 でするができまするができまするができます。 でするができまするができまするができます。 でするができまするができまできます。 でするができまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまで	。課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 実務経験のある教員によいます。 実務経験のある教員によいできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	る授う 星型 のき 明で説・る。 火山の
授業の追注意点 授業アク・授業計	属性・履ティブラー:	教科習習不可能 対	・授業プリントを用いる。 ・授業プリントを用いる。 ・授業プリントを用いては、 ・授業化や体にでいいでは、 ・では、	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 制作物, 定期試験 とする。), 化学(1年, 24 ・プレートテクトコ	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 であること であること 型ごとの到達 太陽に 大勝徴と、 は球る、 は球さいのの形成 で、 のいい に、 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。	。課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 実務経験のある教員によいます。 実務経験のある教員によいできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	星型型 の明で 説明 で派きる 火山の
授業の追注意点 授業アク・授業計	属性・履ティブラー:	教科習習不可能 科習習不可能 関連 修上の 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	・授業プリントを用いた (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	いて講義形式で行う 図るため, 観察実習 答の理解・把握を徹 制作物, 定期試験 とする。), 化学(1年, 24 ・プレートテクトコ	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 こであること 過ごとの到達 大型にのいて属地 関本と、ののる断層ののいる断層ののいるがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがです。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするができます。 でするがでするがでするができます。 でするがでするができます。 でするがでするができます。 でするができまするができますできます。 でするができまするができますできます。 でするができまするができます。 でするができまするができまするができます。 でするができまするができまするができます。 でするができまするができまできます。 でするができまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまできまで	。課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 実務経験のある教員によいます。 実務経験のある教員によいできる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	る授う 星型 のき 明で説・る。 火山の
授業の進注意点 授業アク・ 授業計	属性・履ティブラー:	教科習習不は終末 本	・授業プリントを用いた。 ・授業プリントを用いた。 ・授業では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	いて講義形式で行う 図るため, 観察実を 部の理解・把握を 部作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24 ・ プレートテクトニ 火山活動 施する	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 正適宜行う。 こであること 過ごあること であること のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 実務経験のある教員によ と地球型惑星,木星型惑星,天王 明できる。 に生命が存在する条件について説明できる。に生命が存在する条件について説明できる。が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、	る 授
授業の進注意点 授業アク・ 授業計	属性・履ティブラー:	執科図音 1 回 1 1 回 1 1 回 1	・授業プリントを用いた (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)	いて講義形式で行う 図るため, 観察実を 部の理解・把握を 部作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24 ・ プレートテクトニ 火山活動 施する	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 で 遠隔授業対応	正適宜行う。 正適宜行う。 こであること 過ごあること であること のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 実務経験のある教員によ 世標 と地球型惑星,木星型惑星,天王皇明できる。 でる惑星の特徴について説明できる。 なに生命が存在する条件について説明できる。 がた とプレートテクトニクスについて説明できる。 がん, 地震の仕組みについて説明できる。 がん, 地震の仕組みについて説明できる。 が、 はいの形と噴火の様式 る。	る 授
授業の進注意点 授業アク・ 授業計	属性・履ティブラー:	教科習習不は終末 本	・授業プリントを用いた。 ・授業プリントを用いた。 ・授業では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	いて講義形式で行う 図るため, 観察実を 部の理解・把握を 部作物, 定期試験 とする。) , 化学(1年, 24 ・ プレートテクトニ 火山活動 施する	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 ② 遠隔授業対応	正適宜行う。 正であること 過ごあること の可証とののいて であること の可証とのののに、 はです。 です。 です。 です。 です。 です。 です。 です。	。課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 課題,制作物は1つでも未提出が高にます。 実務経験のある教員によいできる。 と地球型惑星,木星型惑星,天王皇明できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	る 授
授業の進注意点 授業アク・ 授業計	属性・履ティブラー:	執科図音 1 回 1 1 回 1 1 回 1	・授業プリントを用いた。 ・授業プリントを用いた。 ・授業では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	いて講義形式で行う図るたう。 図るため、観察をで行う図容の理解・把観察をである。 の地作物、定期試験とする。)、化学(1年,2年 ・プレートテクトニ 火山活動 施する 人間生活	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 下) ② 遠隔授業対応 1 1 2 3 3 4 5 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	正適宜行う。 正適宜行う。 正であること 過太星にあること であること のののいに、 で系ついに、地で構ってに説明できる。 でですると、ののる断ででは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	。課題,制作物は1つでも未提出がる 実務経験のある教員によ 実務経験のある教員によ と地球型惑星,木星型惑星,天王 明できる。 に生命が存在する条件について説明できる。に生命が存在する条件について説明できる。が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、 地震の仕組みについて説明できる。 が、	る 屋 別 て脈き 火式 成 とが が 説 が の で か が 説 か の で か が 説 か の で か が 説 か の で か が 説 か の で か が 説 か の で か が 説 か の で か か が 説 か の で か か が か か か い か い か い か い か い か い か い か
授業の追 注意点 授 業の 図 アク	属性・履 ティブラー: 画 1stQ	教科習習不可能 大の 大の 大の 大の 大の 大の 大の 大	・授業プレイトを Provided P	いて講義形式で行う図るたう。 図るため、観察をで行う図容の理解・把観察をである。 の地作物、定期試験とする。)、化学(1年,2年 ・プレートテクトニ 火山活動 施する 人間生活	。 , 制作物の作成等を 底すること。 の平均が60点以上 下) ② 遠隔授業対応 1 1 2 3 3 4 5 6 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	正適宜 たまで さい で は で ある こと で ある こと で ある こと で ある こと の の い に 、	。課題,制作物は1つでも未提出が高にまります。 □ 実務経験のある教員によります。 三と地球型惑星,木星型惑星,天王皇のできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできたいできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできたいできる。 このできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたいできたい	る 理 月で 説・る 山に さ が が が と

		15	调								
		16		前期		 徳しない					
		1近		生命の	が の誕生と変遷(命の誕生・生物	2回)		生物の誕生と進化して説明できる。生物	こついて、 物に共通す	現在有力がる性質にご	よ考え方につい Oいて説明でき
		2边	—————————————————————————————————————					30			
		3 3 3 3		生物の		 紫系 イオーム,食物連鎖		植生の遷移をそれる と日本のバイオー	 ぞれ説明で ムについて	きる。世界	
	3rdQ	4 4 1		⊕ / □		171 乙,及防建筑		C 1 7 0 7 (1 7 1	<u> </u>	. B) [P) [C C A	۵۰
		5 5 2		②炭素	表循環・窒素(生態系における炭漬 て説明できる。	素の循環と	エネルギ-	-の流れについ
		6 6 1						CWM CCO.			
		7〕		③人[聞活動と地球球	 環境の保全		熱帯雨林の減少の原	 京因と対策	について	 説明できる。
後期		8i			中間試験:実施						
12,743		9년	<u> </u>								
		10	週	④地!	求温暖化			地球温暖化などの風	原因と対策	について記	説明できる。
		11	週								
		12	週	地域の	の自然			地域の文化や産業 説明できる。	が,自然の	特徴と関い	重があることを
	4thQ	13	週								
		14	週		と海洋 気の構成・大気	気の大循環		大気圏の構造と特行 気の循環と熱収支 , 気象現象を説明	を説明でき	についてi る。大気の	説明できる。大 の循環を理解し
		15	週								
		16			明末試験:実施						
モデルニ	<u> アカ!</u>	ノキュ	ラムの	学習	内容と到達	目標					
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標	•			到達レベ	
						地球上における生物			L. 11 11	3	後1
						生物に共通する特徴 について説明できる	数について埋解し、 る。	、生物の共通性と進	E化の関係	3	後1
						地球に生命が誕生し		 きる。		3	後1
						生命活動にエネル	ギーが必要である	ことを説明できる。		3	後7
						生態系の構成要素(生態系における分類できる。	生産者、消費者、 解者が人間生活と	分解者) について ^玛 深く関わっているこ	理解し、 ことを説明	3	後3,後5,後 12
						植生の遷移、バイス いて説明できる。	オームについて理	解し、その仕組みや	分布につ	3	後3,後12
						太陽系を構成する語動と周期性についる	 惑星の中に地球が C説明できる。	あることを理解し、	天体の運	3	前1,前3
基礎的能力	」自然	科学	ライフエンス	・ア	ライフサイエンス・ア			の流れなどの気象現	象を説明	3	後14
			ース サ ンス	1 上	ースサイエ ンス			及び大気・海洋によ	る熱輸送	3	後14
						原始地球の変遷にご		0		3	前3
						地球におけるマグ	マの生成や火山活	<u>。</u> 動を理解して、人間	生活に与	3	前3
						える影響を説明でき 地震の発生と断層。 関連付けて説明でき	軍動を理解して、は	地震活動をプレート		3	前5,前7,前10,前12,前
								多様性の喪失につい	へて説明で	3	14 後3
								、生物濃縮における	3公害問	3	後7
						地球温暖化の問題点		説明できる。		3	後10
評価割合	ì										
		試験		発	 表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	É	
総合評価割	合	70		0		0	0	30	0		100
基礎的能力	י	70		0		0	0	30	0	1	100
専門的能力		0		0		0	0	0	0	C	
分野横断的	能力	0		0		0	0	0	0	lo)

11/11 LL	工業高等	専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	物理
科目基礎		<u>VI. LT 17.</u>	אָל ין ה ינולון		202 1-12)		100-2
科目番号	W.IH+IX	0020			科目区分	一般 / 』	
授業形態		講義			単位の種別と単位		
開設学科		情報工学	· 分野		対象学年	1	Z. Z
開設期		通年	7523		週時間数	2	
教科書/教	·····································	【教科書	】『初歩から学ぶ基 『NIEW PROGRAM		(大日本図書) /	 【参考書】『よぐ	くわかる物理基礎+物理』(学研)/【 書コーナーがあります
担当教員			<u> </u>	<u> </u>	(万久至) / 凸目		
到達目標	======================================	[7][3:3:13	27. 3. 7 74.0.				
◇等加速原 ◇力を図え ◇運動方利 ◇運動量の ◇仕事との	変運動を説明 示し力の大き 程式を立式で 保存則を立す 仕事率を求め	きさを求める できる.	ことができる.				
ルーブリ	<u> </u>				1		
			理想的な到達レイ		標準的な到達レイ	ジルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	価項目1		物理計算の中で, の接頭語に注意で表記ができる.	有効桁数・単位 をして適切な数値	物理量を指定され 位で科学表記です	ιた有効桁数・≦ きる.	単位を含んだ科学表記ができない・
評価項目2	·····································		正負の速度・加速の運動を想像します。	速度に対し, 実際 説明することがで	等加速度運動に対 公式を適用し, 言	付して三つの基準 十算ができる.	「加速度」の定義式を用いた計算ができない.
評価項目3	平価項目3		複数の力が働いる	ている場合の図示 分解を計算をする	2力の合成, 2成 及び計算をするこ		示 2力の合成を図示及び計算ができない.
評価項目4	評価項目4		複数の力が作用し	している複数物体 呈式を立式し,加 を算出できる.	1物体系の運動方 速度を算出できる	程式を立式し, 3.	加 運動方程式を立式できない.
評価項目5	5		運動量保存則,原	マ発係数の2式を連 こ物体の速度を算	運動量保存則を立体の速度を算出で	Z式し, 一つの物できる.	勿 運動量保存則を立式できない.
評価項目6	5		力の大きさが一定	定でない場合,移 場合において仕事 できる.	力,移動距離, 仕事率を算出でる	時間から, 仕事で きる.	仕事と仕事率の値を算出できない。
学科の到	到達目標項	頁目との関	 係		•		•
	育到達度目標						
教育方法	去等						
概要	<u> </u>	物理現象 科学的思 1 学年で	を実体験として理解 考力を養うとともに は特に力学を扱う.	- !し, それを数量的 :, 学ぶことの楽し	, 数式的にとらえる さを実感してほしい	る能力を養う. ハ.	
授業の進む	対方・方法	中授【【【【【の【一、【】」の【一、【】」の【一、一、【」の【一、一、【」の「一、一、」が変われば、	と比に、 と比に、 は、 は、 なの書、 は、 なの書、 なのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま	うちに ラちに カラちに カラちに カラをに カラをに カラをに カのを カのを カのを カのを カのを 大ので 大ので 大いに でいる はい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい でいる にい にい にい にい にい にい にい にい にい にい	すことです。 ボンダー(清学学) (京学学) (京学学) (京学学学) (京学学学) (京学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学	点とする. ける0点以上を含ける. する. 00点とする. 也者とのコミュ てください. 0返すことい知 てください. を用いるべきか!	ニケーションが不可欠です. 授業やそ 識として定着します. 図書館やインタ を「選択する力」, 法則に沿って立式
注意点		 「I:初期 目標とす 「どんな	目:物理(2年生), 状態」に「A:作用」 るFの為にどんなAを Fを目標としようか を意識して学習を進	を加えてどんな「I を加えるかを逆算す ? 」まで考え,実際	F:終状態」になるか るのが Technolod	ıv です.	出すのが Science です. す.
	黒性・履 値						
 授業の ^同			☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業の原 ☑ アクテ			1 11/11		1		1 = 1 : U IAR ICO UIXA
	ニィブラーニ						
☑ アクテ	ーィブラーニ						
☑ アクテ	ーィブラーニ	调	授業内容			调ブとの到達日	標
☑ アクテ	ーィブラーニ	週	授業内容 ガイダンス 科学員			週ごとの到達目	
☑ アクテ	ーィブラーニ	1週	ガイダンス,科学量		-159	量記号,単位記	号の違いを理解できる.
☑ アクテ	ーィブラーニ	1週 2週	ガイダンス, 科学量 有効桁数 pp.160-1		-159	量記号,単位記 有効桁数,科学	号の違いを理解できる. 表記,接頭語の使い方を理解できる.
☑ アクテ	ーィブラーニ	1週 2週 3週	ガイダンス,科学量 有効桁数 pp.160-1 演習	61	-159	量記号,単位記 有効桁数,科学 与えられた数値	号の違いを理解できる. 表記,接頭語の使い方を理解できる. を指定された表記で表す事ができる.
図 アクテ	ーィブラーニ	1週 2週 3週 4週	ガイダンス,科学量 有効桁数 pp.160-1 演習 速度・変位 pp.8-1	2	-159	量記号,単位記 有効桁数,科学 与えられた数値 速さと速度の違	号の違いを理解できる. 表記,接頭語の使い方を理解できる. を指定された表記で表す事ができる. いを理解し,算出できる.
	ゴ	1週 2週 3週 4週 5週	ガイダンス,科学量 有効桁数 pp.160-1 演習 速度・変位 pp.8-1 速度・加速度 pp.1	2	-159	量記号,単位記 有効桁数,科学 与えられた数値 速さと速度の遺 等加速度運動を	号の違いを理解できる. 表記,接頭語の使い方を理解できる. を指定された表記で表す事ができる. いを理解し,算出できる. 理解し,加速度を算出できる.
図 アクテ	ゴ	1週 2週 3週 4週	ガイダンス,科学量 有効桁数 pp.160-1 演習 速度・変位 pp.8-1	2	-159	量記号,単位記 有効桁数,科学 与えられた数値 速さと速度の遺 等加速度運動を 使う公式を選び	号の違いを理解できる. 表記,接頭語の使い方を理解できる. を指定された表記で表す事ができる. いを理解し,算出できる.

		9週	答案返却,力の表示 pp.34-37	力の3要素を説明でき、力の矢印を正しく書く事ができる。
		10週	力の合成と分解 pp.34-37	2力の合成,2成分への分解を図示および値を計算できる。
		11週	力のつりあい・作用反作用 pp.38-43	力のつりあい・作用反作用の関係を説明できる.
	2-40	12週	【実験】「3カのつりあい」	測定結果をグラフに描き,三角比を用いて実験結果を 説明できる.
	2ndQ	13週	重力,弾性力 pp.44-48	重力と弾性力について理解し、その大きさを計算できる.
		14週	抗力,摩擦力 pp.49-55	抗力, 摩擦力, 浮力について理解し、その大きさを計 算できる。
		15週	演習	与えられた状態において物体に働く力を図示し,その 大きさを算出できる.
		16週	前期期末試験:実施する	
		1週	運動の三法則 pp.56-64	運動の三法則の概要を説明できる.
		2週	運動の第二法則(運動の法則) pp. 58-70	一物体に力が働く場合の運動方程式を立て,物体の加速度を算出できる.
		3週	演習(様々な力)	一物体に重力,張力,弾性力,摩擦力など複数の力が 働いている場合において,運動方程式をたて,加速度 を求める事ができる.
	3.40	4週	演習(複数物体)	物体が連結している状態において,作用反作用の法則 を適用しながら張力や加速度を求める事ができる.
	3rdQ	5週	演習(自由落下,鉛直投げ上げ)pp.25-28	重力による鉛直方向の運動について正負を意識して運動方程式から,加速度,速度,変位を求めることができる.
		6週	【実験】「自由落下」	x-tおよびx-vの測定結果をグラフにし,重力加速度を 求めることができる.
後期		7週	演習 (総合問題)	与えられた状態に対して,物体の運動の様子を計算する事ができる.
		8週	後期中間試験:実施する	
		9週	答案返却,力積と運動量 pp.76-80	力積と運動量を理解し,運動量を計算できる.
		10週	運動量保存則 pp.81-86	衝突, 合体, 分離前後の運動量が等しいことを立式で きる.
		11週	反発係数 pp.87-92	物体同士の衝突後の速さを算出できる.
	4thQ	12週	演習 (力積と運動量)	与えられた状態に対して,物体の運動の様子を計算する事ができる.
		13週	仕事 pp.94-99	物理における仕事を理解し,仕事を計算できる.
		14週	仕事率 pp.94-99	力,移動距離,時間から仕事率を計算できる.
		15週	演習(総合問題)	与えられた状態に対して,物体の運動の様子を計算する事ができる.
		16週	後期期末試験:実施する	
モデル	1アカリキ	こっラムの)学習内容と到達目標	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標分類分野学習内容学習内容の到達目標

類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
				速度と加速度の概念を説明できる。	2	前4,前5
				平均の速度、平均の加速度に関する計算ができる。	2	前4,前5
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の変位、時間、速度に関する計算ができる。	2	前5
				自由落下及び鉛直投射した物体の変位、速度、時間に関する計算ができる。	2	後5,後6
				物体に作用する力を図示できる。	2	前9
				力の合成と分解ができる。	2	前10
				質点にはたらく力のつりあいに関する計算ができる。	2	前13
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を理解し、それぞれの力に関する計算ができる。	2	前13
				運動の三法則について説明できる。	3	後1
碳的能力	自然科学	物理	物理 	運動方程式を用いて、物体に生じる加速度や物体にはたらく力などを求めることができる。	2	前11,後 1,後2
- 7,5,5				静止摩擦力がはたらいている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前14
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前14
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	前14
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	2	後13,後1
				物体の質量と速度を用いて、運動量を求めることができる。	3	後9
				物体の運動量変化が力積に等しいことを用いて、力積の大きさ、 速度変化及び加わる平均の力などを求めることができる。	3	後10
				運動量保存の法則について説明でき、その法則や反発係数を用いて、物体の衝突、分裂及び合体に関して、速度変化などを求めることができる。	3	後10,後1
	工学基礎	工学実験技 術	工学実験技 術	実験テーマの目的を理解し、適切な手法により取得したデータから近似曲線を求めるなど、グラフや図、表を用いて分かり易く効果的に表現することができる。	2	前12,後6

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

		専門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	青報リテラシー			
科目基									
科目番号	1	0006		科目区分	専門 / 必修	·			
授業形態	{	実習		単位の種別と単位	数 履修単位:	1			
開設学科	ļ	情報工学	分野	対象学年	1				
開設期		前期		週時間数	2				
教科書/勃	教材	参考書: Program	イチからしっかり学ぶ!Office基礎とサnming日本語版シリーズ(アスキードワ	青報モラル(Office2 ンゴ)	2019対応)(noa出版)・The Art of Computer				
担当教員	Į	林 裕樹,		 扣藤 順司,佐藤 英樹					
到達目	 標								
②電子メ ③文書作 ④IoTの ⑤アルゴ	ールやウェ 成、表計算 概要や、実装	ブブラウザな , プレゼンテ ま方法の原理:	- ク利用に関するモラルやマナー,知的などのインターネット環境を利用できることのインターネット環境を利用できることのことにつたオフィスアプリケーがわかる。 「な処理のアルゴリズムの概要がわかる」	。 ションの基本的な例					
<u> </u>	<u> </u>		理想的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安				
評価項目1			ネットワーク利用に関するモラル やマナー,知的所有権の内容を理解できる	標準的な到達レベ ネットワーク利用 やマナー, 知的所 わかる	 に関するモラル	ネットワーク利用に関するモラル ヤマナー, 知的所有権がどのよう なものかわからない			
評価項目	12		電子メールやウェブブラウザなどのインターネット環境を活用できる	電子メールやウェ のインターネット る	ブブラウザなど 環境を利用でき	電子メールやウェブブラウザなどのインターネット環境の使い方がわからない			
評価項目	13		オフィスアプリケーションの機能 を活用できる	オフィスアプリケ 的な使い方がわか	る	オフィスアプリケーションの使い 方がわからない			
評価項目	14		IoTの概要を理解し,簡単な処理を 実装できる	の実装の基本的な		IoTの概要, デバイスなどの実装についての基本がわからない			
評価項目	15		アルゴリズムの概念を理解し,基 本的なアルゴリズムを適用できる	アルゴリズムの概 本的なアルゴリズ る	(念がわかり, 基 ぶムの概要がわか	アルゴリズムの概念, 基本的なア ルゴリズムの概要がわからない			
学科の	到達目標耳	頁目との関]係	, =					
学習・教	有到達度目標	票 C 学習・教	教育到達度目標 F						
教育方	法等								
概要		通して触 情報処理 授業の内	プリケーションの基礎的な使用方法を 、および効率的な処理を実現するため れながら理解を深める。 センターの演習室を使い、実際に自分 とは基本的な内容となりますが、卒業			 ごで行います。			
授業の進	め方・方法		IoTやアルゴリズムはコンピュータをよ :しっかりと身につけてください。	より便利に, より効	率的に使うために	不可欠なものなので, 基本的な考え			
注意点		けること	の授業なので休むことのないように留 :。 ・ドなどの重要な情報の管理には特に注	,					
授業の	属性・履修	多上の区分)						
□ アク	ティブラーニ	ニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業			
授業計	画								
		週	授業内容	ì	週ごとの到達目標				
前期		1週	ガイダンス・ログイン・パスワード変		自分のアカウント ⁻ 更できる	でログインできる・パスワードを変			
		2週	ネチケット・ネット利用のリテラシー 利用申請		用する際に必要なモラルなどを理解 ネットを利用するために利用申請を				
		3週	WebClassの使い方・Web検索の利用!		WebClassにログインできる・WebClassの基本的な使い方がわかる・基本的なWeb検索の方法がわかる				
	1stQ	4週	コンピュータの仕組み・Office365のf		コンピュータの基本的な仕組みがわかる・Office365に サインインできる・Office365の基本的な使い方がわたる				
		5週	Wordの使い方		Wordの基本的な操作方法がわかる・Wordで新規文書 を作成できる・Wordの文書を保存できる				
		6週	Excelの使い方	È	Excelの基本的な操作方法がわかる・Excelで新規にブックを作成できる・Excelで基本的な計算ができる・Excelで基本的なグラフを作成できる・Excelのブックを保存できる				
		7週	PowerPointの使い方	F	PowerPointの基本的な操作方法がわかる・PowerPointで新規にプレゼンテーションを作成できる・プレゼンテーションに図形を入れられる・プレゼンテーションにアニメーション効果を適用できる・PowerPointのプレゼンテーションを保存できる				
					IoTの基本的な概念を理解できる・データの収集に関る基本的な仕組みを理解できる・データの活用について基本的な仕組みを理解できる				

		9週	Raspberry Piの基本操作					エミュレータ上でRaspberry PiのOSの基礎的な操作方法がわかる・Raspberry PiのOSにログインできる・Raspberry PiのOSのコマンドラインで簡単なコマンドを実行できる・Raspberry PiのOSの終了手続き(ログアウト・シャットダウン)ができる						
		10週	Raspberry Piでのプログラミング1					エミュレータ上のRaspberry PiでPythonを使った基礎的なプログラムを記述し実行することができる・Pythonで標準出力にメッセージを表示できる・Pythonで標準出力にプログラムの処理結果を出力できる						
	2ndQ	11週	Raspberry Piでのプログラミング2					エミュレータ上のRaspberry PiでPythonを使ったやや複雑なプログラムを記述し実行することができる・Pythonでファイルの内容を読み取り、内容に応じた処理を適用した結果を出力できる						
		12週	アル:	ゴリズムの概	念・基本的なデー		アルゴリズムの基本的な概念がわかる・基本的なデー タ構造の概要がわかる							
		13週	反復処理				反復によって繰り返し処理を表現できることがわかる							
		14週	整列処理 基本的な整列アルゴリズムの種類がわかる・ 整列処理のアルゴリズムの概要がわかる								・基礎的な			
		15週	探索処理					基本的な探索アルゴリズムの種類がわかる・基礎的な 探索処理のアルゴリズムの概要がわかる						
	16週													
モデルコ	アカリ=	キュラムの)学習	内容と到達	桂目標									
分類	分類 分野			学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル 授業週						
評価割合	ĩ													
試		験	発表		相互評価	態度		ポートフォリオ	その他		合計			
総合評価割	合 0		0	·	0	0		100	0		100			
基礎的能力	0		0		0	0		100	0	100				
専門的能力 0			0		0	0		0	0		0			
分野横断的	1能力 0		0		0	0		0	0	0				